モノグラフ
中学生の世界
vol. 23

中学生のえがく教師像

～生徒たちは教師をどう評価しているか～

目次

特集●中学教師の仕事とは何か …… 深谷昌志 2

調査レポート●中学生のえがく教師像 …… 深谷昌志 7

サンプルと要約 …… 7

第Ⅰ章 中学生たちの教師評価 …… 9

1．どういう教師が多いか …… 9

2．教師と生徒との心理的距離 …… 14

3．教師からの評価 …… 19

4．どんな教師を望みたいか …… 22

第Ⅱ章 生徒の教師観を支えるもの …… 25

1．教師から評価される生徒 …… 25

2．数量化Ⅱ類を使って …… 30

3．高校生と比較して …… 36

4．教師像の類型化 …… 41

資料1 調査票見本 …… 45

資料2 基礎集計表 …… 55

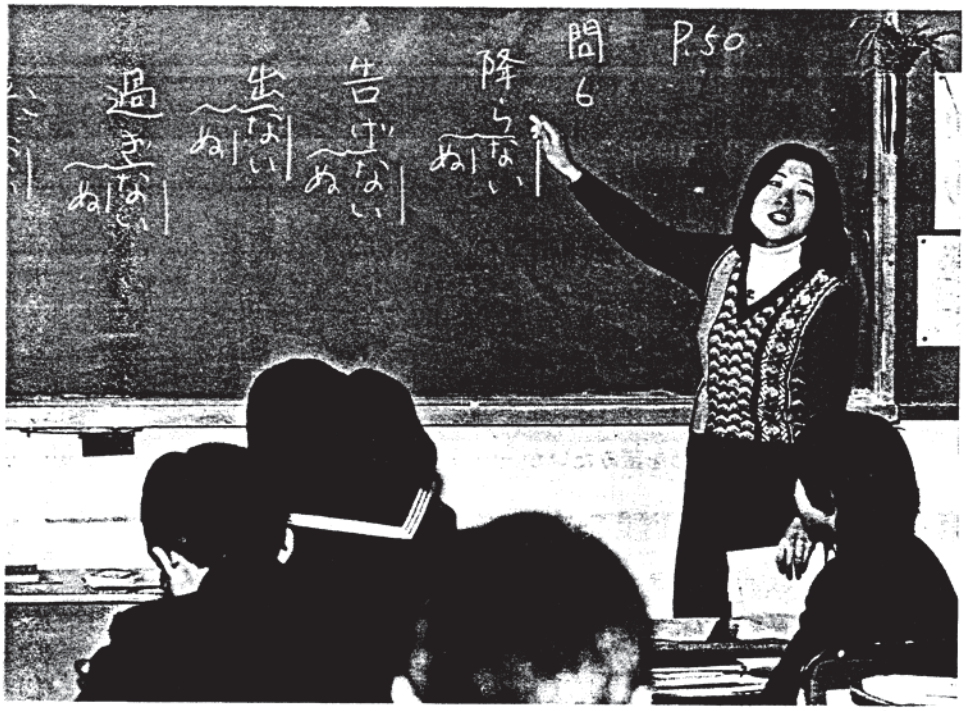
※おことわり　本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

特 集

中学教師の仕事とは何か

—「知識を授ける」と「心を育てる」との距離—

放送大学教授　深 谷 昌 志



いじめや体罰などの教育問題が起こると、必ずといっていいほど、教師の責任が問われる。生徒の指導が職務なのであるから、何とかしてほしいと願うのであろうが、教師を、何でもたちどころに解決できるスーパーマンとでも信じているのではないかと感じることがある。ひとりの教師に対して生徒は大勢な上に、限られた時間の中で教師がどこまでできるかに疑問が生じる。

家庭の問題は家庭へ、そして地域の問題は地域へ戻した上で、教師として、学校の中で何ができるのかを考えていく態度が必要なのであろう。

そうはいっても、教師の働きを期待する親

たちの前には、学校の機能縮小論は弁解としてしか響かないかもしれない。多くの教師たちがかなり努力しているのはたしかだが、それでも、いじめに象徴されるような中学生の問題は深刻化の一途をたどっており、それに伴う教師批判は高まる一方である。それだけに、教師の努力が空まわりをしている感じがする。

(1) 脱学校論の中の教師批判

数年前に、脱学校論がつぎつぎと訳出され、教育界に衝撃を与えたことがあった。あらためてふれるまでもなく、学校は、ほんとうに子どもの人間形成に役立っているのか。教育という名を借りて、子どもを抑圧する機関なのではないかという指摘である。

たしかに、学校は程度の差こそあれ、制度化されているので、人間味に欠ける面が生じるのは否定しがたい。それだけに脱学校論に一面の真理が含まれており、それが教育関係者にある種の共感を与えたのであろう。

しかし、脱学校論の主張を調べてみると、かなりの部分が教師批判で占められているのがわかる。例えば、イリッチ（I.Ellich）は『脱学校の社会』(“Deschooling Society”、東洋・小沢周三訳　東京創元社）の中で、教師は、①何が正しいか、何が誤っているかを子どもたちに指示するイデオロギストであると同時に、②ルールへの遵守を求める裁判官、そして、③子どもの内的な生活にふみこんで治療する医師という三つの権限をあわせ持つと指摘している。

このように、三種の権威が教師の中に統合され、その結果、ひとりの教師が道徳性、合法性、個人的価値の権限をあわせ持つようになる。したがって、通常の生活では考えられないほどの権限を教師が握る結果となる。そうした批判をふまえて、イリッチは、ネットワークを基本とした新しい教育制度の中で、教師は教育カウンセラーとならねばならないと指摘している。

また、ホルト（J. Holt）は『21世紀の教育よこんにちは』(“Instead of Education”、田中良太訳　学陽書房）の中で、教師を「キョウシ」(Teacher）と「きょうし」(teacher）とに分類している。そして、「生徒以外の誰かが学ばなければならないと決めた内容を押しつけている人」を「キョウシ」、「自ら望んだ事柄について学びたいと思っている生徒を援助する人」を「きょうし」とよぶ。

現代の学校――ホルトは、学校も、Schoolとschoolとに区別しているが――では、多かれ少なかれ、教師は「キョウシ」にならざるをえないが、それでは生徒の自主性を生かした教育はできない。教師が「きょうし」となり、生徒たちの学ぼうとする意欲を尊重する時に真の教育が始まると指摘している。

もうひとつの脱学校論はベライター（C. Bereiter）の『教育のない学校』(“Schools Without Education”、下村哲夫訳 学陽書房）で、教師の仕事を、「知的な技術（skill）の伝達」と「子どもの世話」(take care)とに分類

している。そして、この二つの役割を同一の人間が担うのは基本的に望ましくないし、それに、実際にもむずかしいという。なぜなら、技術を伝達する「訓練」は、目標を決め、権威を持って、目標達成を子どもたちに求めるのに対し、「世話」は目標を定めたり、ことの成功や失敗を問うたりすることなしに、子どもの側に立って、子どもの心を育てる営みであるから、この二つの役割をひとりの教師では果たしえないという論理である。

(2) 教師のヘッドシップ

今まで、脱学校論の中で提起された教師論を概観してきた。脱学校論そのものがそうであるように、批判が的を射ていると思う反面、そうした批判の後に、どういう教師像を理想とするのかが、今ひとつ明らかでない。

したがって、脱学校論は空想にすぎて、現実性に欠けると批判するのは容易であろう。しかし、脱学校論の提起した問題は、おおむね妥当と考えられるだけに、教師批判についても、謙虚に耳を傾ける態度も必要となろう。

すでにふれたように、脱学校論者の教師批判は、それぞれの立場を反映して、アクセントの置き方に多少の開きが認められたものの、いずれの場合も、教師が必要以上の権威を持ちすぎている点に問題を見いだす態度は共通している。

考えてみると、教師は、そうでなくとも権威を持ちやすい状況の中で生活している。なによりもまず、教師と生徒との関係は、おとな社会の権威を代表した教師が、一定の知識や技術の習得を、被教育者である生徒に求めるので、教師の圧倒的な優位の形となりやすい。つまり、単なるおとなと生徒の関係でも、おとなが優位なのに、教育者と被教育者の関係が加わるので、教師の権限は、ヘッドシップとよばれるほどの強さを持ち始める。

さらに、教育の行われる場である教室は、教師以外のおとなが入りこむことが少ない密室を構成している。考えてみれば、当然で、学校内の他の教師はそれぞれの授業を担当しているし、校長などの管理職も、よほどのことがない限り、教室をのぞくことはしない。したがって、通常の教室内で、教師はリリパットに住むガリバーのような巨大な存在となる。

さらにいえば、教師たちは朝早くから登校し、そして夕方、ときには、夜遅くまで在校しているので、世間とのつき合いが乏しく、学校の中がすべてとなりやすい。もともと学校は、生徒たちを除くと、親ぐらいしか入ってこない閉鎖社会の性格が強い。しかも、親たちは、担任から子どもを評価され、それが内申にもかかわるので、教師との間に純粋な人間同士といった横の関係を持ちにくい。

つまり、閉鎖的な学校の雰囲気の上に、密室的な教室の条件が重なり、教師の力はカリスマ的なものとなりやすい。しかも、学校や教室の中では、教師がそうしたカリスマ的なヘッドシップを合法かつ妥当に行使している

かどうかをチェックする機構に欠ける。そのため教師は、ともすると巨大な権限の持ち主である状態に慣れ、そうした力を持っていることを当然のように思い始める。

そうなると、力そのもの、そして力の行使を自戒する気持ちが薄れてくる。その結果生徒たちを、教える対象とみて、生徒を統制する態度が強まりがちになる。

特に、中学校では、小学校のように学級担任制でなく、教科担任制がとられているので教師は特定の教科という側面に限定して、生徒とつき合う。そのため、トータルとしての生徒と向かいあう機会が少なくなる。

(3) 教育者としての良心

これまで、教師の暗い面ばかりを指摘しすぎたのかもしれない。もちろん、実際の教室では、専制君主のように生徒たちに君臨する教師は、決して多くはない、というより生徒たちの心に気を配りながら、学級を運営している教師を見かけるほうが、むしろ一般的ですらある。つき放した見方をすれば、教師は権威主義的になりやすい機構の中で毎日を送っている。それにもかかわらず、権威があらわにならない。それは教師たちが、教育者としての職業意識から、生徒と接するときに、生徒の心を開くためにも、生徒の背の高さにあわせた態度でのぞむ必要があると感じているからであろう。

つまり、すでにふれた教師のヘッドシップがいきすぎているかどうかを抑制するのは、教師自身の良心、あるいは、職業倫理のように思われてならない。

こうした言い方をすると、歯止めのなさを憂うるむきがあるかもしれない。しかし、専門職をイメージに置くと、良心への依存は決してまれな現象ではない。

例えば、われわれが医師にかかるとき、何が専門の、どういうキャリアの持ち主なのかを知らなくとも、その医師がベストを尽くしてくれるのを信じて、患者となる。考えてみると、患者としては、医師の良心——専門的な知識や技術を最善に駆使すること——に頼っているが、もしかしたら、その医師がベストを尽くさない場合もありうるのである。もちろん、統計的に圧倒的に多くの医師はベストを尽くしているし、そうであるから、医師に対する信頼が揺らがないのであろう。

医師に限らず、専門職の中には、職業人としての良心や倫理に、専門職としての支えを見いだしている場合が多い。そう考えてくると、教職が、教師の心のあり方に多くを依存しているのは、それだけ専門職に近い証しといえなくもない。

(4) 生徒理解のむずかしさ

そこで問題となるのは、教師たちが、生徒の心を扱い、そして、生徒の心を育てる態度や技術を、どの程度持っているかであろう。

教師の研修というと、数学や国語といった教科の領域が浮かんでくる。事実、公開研究会などの折に、教材研究にたくさんの人たち

が集まる。たしかに、教材の解釈を深めることが、教師としての研修の重要な部分を占めるのは否定しにくい。

しかし、そうした意味での研修は、いわばベライターのいう「知識や技術の伝達」機能の強化であって、「子どもの世話」的な面には結びつきにくい。なぜなら、授業場面での生徒は、あくまで被教育者としてとらえられ、どうしても理解力の良し悪しが、生徒を測るものさしになりやすい。そのため、トータルとしての生徒像がつかみにくくなるからである。

そうした傾向を裏がきするかのように、授業のベテランといわれる教師が、必ずしも生徒の心をつかみきれていない事例に接することが少なくない。

先にふれた脱学校論者の指摘している通りに、授業中の教師は権威を持って、目標への到達を生徒に求めるのに対し、生徒理解は、課題を与えたりするのでなく、素顔の生徒と接するところから出発するからなのであろう。

生徒の素顔をとらえるには、下校してからの生徒を見つめるのが最善であろうが、学校内でも、昼休みや給食時、そして部活動の時に、生徒の素顔があらわれてくる。生徒からすると、教師の目を忘れ、友だちとともに過ごしている時間帯である。

さまざまな雑用に追われる教師たちの生活を考えると、教師が昼休みや放課後に、生徒の輪に入るのは、言うは易く、行い難い行為に属すであろう。それに、ほんの一時間前まで、権威を持って数学を教えていた人と、こんどは権威を離れて、人間同士としてつき合うのは、教師も大変であろうが、生徒のほうもとまどいを感じるにちがいない。

そうしたむずかしさをかかえているだけに、生徒と接しているはずの教師が、かえって生徒の心を知らない状況を迎えやすい。そうした意味で、教師は、裸の王様になりがちなのかもしれない。

もちろん、教師はそこまで生徒に近づく必要はないのかもしれない。しかし、あらためてふれるまでもなく、教授――学習過程が成り立つためには、学習者サイドに、学習しようという意欲が存在するのが前提となるし、それだけに、学習者の心をつかむことが必要となる。教授する側の論理をいかに緻密に展開しても、学習者を欠いては、教授――学習過程は完結しないのである。

そう考えてくると、生徒の心をつかむことは授業のために必要になる。しかし、「知識の伝達」と「世話」の両面を教師たちが満たしているかどうかを知るためには、生徒にたずねるのが近道であろう。もちろん、生徒の声がすべてでないのはいうまでもないが、やはり、教師の力をもっともよく知っているのは生徒たちであろう。そうした実態をふまえた上での教師論が必要となる。そこで、中学生を対象として、生徒たちが教師をどうみているかの調査を実施することにした。なお、参考までに、高校生を対象とした調査も行い、中学生との対比を試みてある。

調査レポート

中学生のえがく教師像

～生徒たちは教師をどう評価しているか～

放送大学教授　深谷昌志

サンプルと要約

〔テーマ設定〕

学校の中で、教師は生徒にとってどんな存在なのか。生徒とのかかわりの中で、教師の果たす役割をとらえ直してみたいと思う。

〔調査概要〕

対象●中学生　東京および関東近郊の公立中学校　5校　1,812名
　　●高校生　関東近郊の普通高校　2校　1,245名
期間●昭和60年5月～7月
方法●学校通しによる質問紙調査

サンプル数

（人）

中学生				高校生			
学年＼性別	男子	女子	計	学年＼性別	男子	女子	計
中 1	234	228	462	高 1	259	237	496
2	276	278	554	2	206	198	404
3	419	377	796	3	150	195	345
計	929	883	1,812	計	615	630	1,245

〔要　約〕

① 担任に対する満足感

「満足」27%、「やや満足」31%と、満足している生徒は半数にとどまった(P.11表1)。

② どんな教師が多いか

教え方がうまく、熱心に授業をする先生は多い。しかし、生徒の心をつかみ、人間として信頼できる先生は少ない（P.12表2）。

③ 担任との心の通い合い

担任は自分のことをほとんど知らないだろう。そして、自分も担任のことはほとんど知らない（P.16表5、P.17表6）。

④ 嫌いな先生

嫌いな先生に受け持たれ、学習する気持ちをなくした生徒は、3～4割に達する（P.19表8）。

⑤ 担任になってほしくない先生

クラスの中でいじめがあっても、だまっている先生（P.22図4）。

⑥ 担任は自分を認めてくれているか

「やや認めている」感じだが、「認めていない」と思っている生徒も3分の1を超える(P.28表14)。

⑦ 担任から認められやすい生徒

頑張るタイプで成績も良く、友だちの多い生徒（P.33図8）。

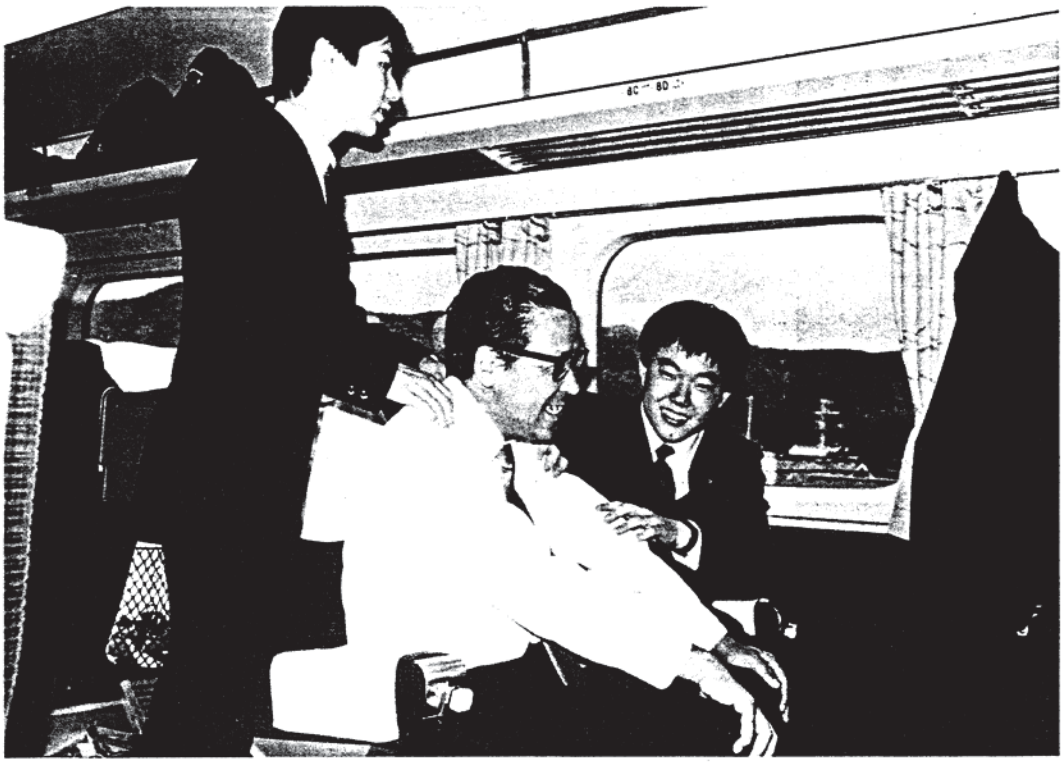
⑧ 高校生にとっての教師

高校生になると中学生以上に、担任に対する無関心さが広がってくる（P.39図10)。

⑨ 生徒の望む教師像

何ごとであれ、熱中してくれる「家庭教師型」から、生徒の気持ちをつかんでくれる「カウンセラー型」への移行がみられる（P.43図12、P.44図13・図14)。

第Ⅰ章 中学生たちの教師評価



1．どういう教師が多いか

図1は、生徒たちの充ちたりた感じを、起きてから寝るまでの形で跡づけたグラフである。一日の中でいちばん充ちたりた感じがしているのは、「夜のんびりしている時」で、次いで「夜テレビを見ている時」、そして、「学校で友だちと雑談をしている時」と続く。

友だちといる時が充足感を持てるのはわかるが、当然のこととはいえ、授業に充ちたりた気持ちを抱いている生徒は少ない。そこで、「充ちたりた」を、「満足」という言葉に置き換えて、学校での満足度をたしかめると、表1の通りとなる。全体として、「やや満足」の割合が多いが、担任については、

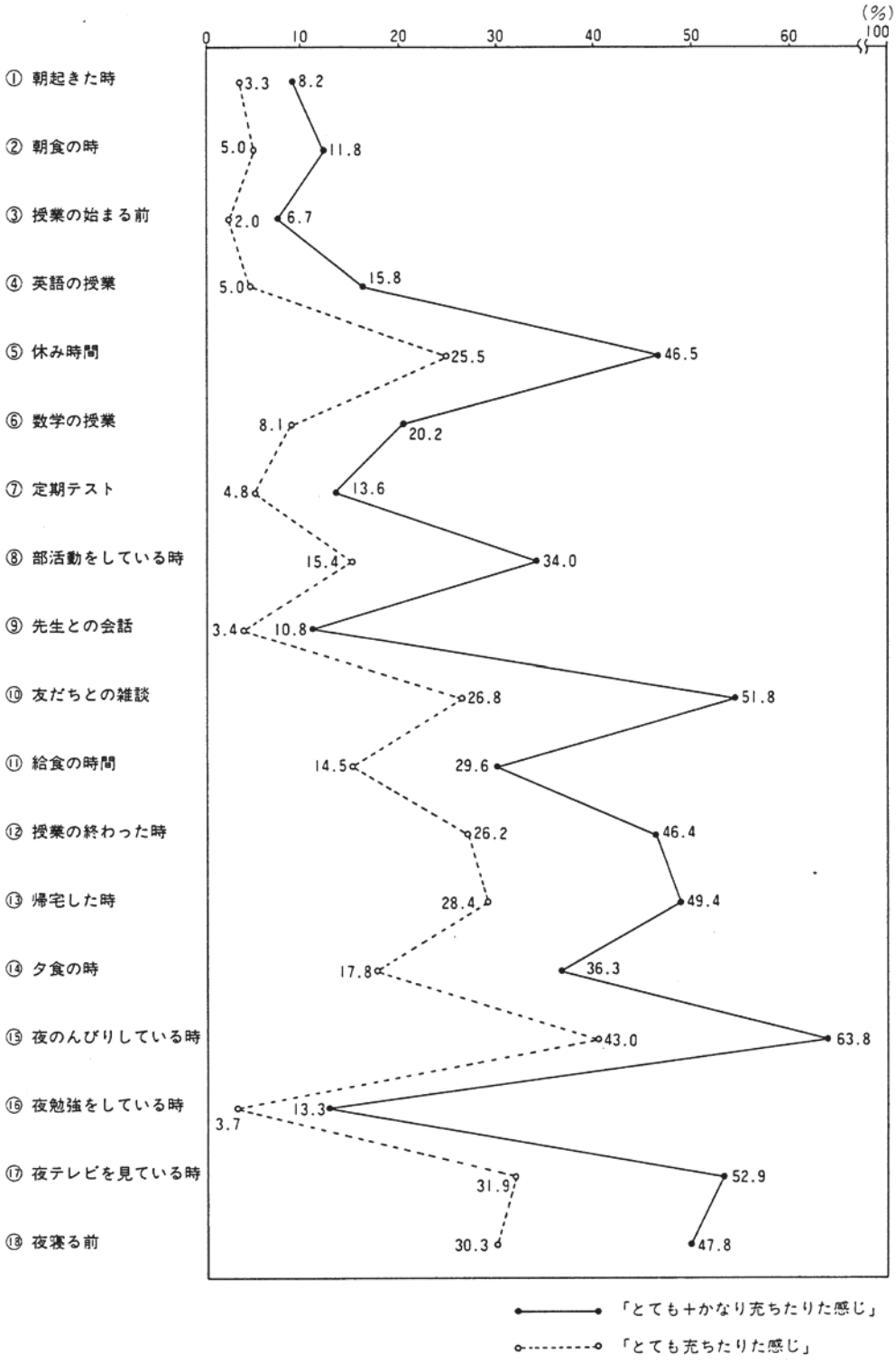
満　足	とても	12%	27%
	かなり	15%	
	やや	31%	
不　満	やや	19%	23%
	かなり	7%	
	とても	16%	

と、あからさまに不満を訴える生徒が2割を超える。それだけに、どういう生徒が教師に不満を抱くのかが気がかりとなるが、そういう考察はのちにふれるとして、先を急ごう。

表2は、「習っている先生の中で、どんなタイプの先生が多いのか」を尋ねた結果である。それによると、生徒たちの反応は、おおむね以下のように要約されよう。

（図１）充ちたりた感じ

└──→夜のんびりしている時と友だちと雑談の時



(1) **そういう先生が多い**

1 部活動を熱心に指導している

2 熱心に授業をする

3 教科の知識がしっかりしている

(2) **そういう先生が少ない**

1 生徒の気持ちをつかんでいる

2 人間として尊敬できる

3 悩みごとを話しやすい

したがって、熱心に授業をしてくれる先生は多いが、生徒の気持ちをつかんでいる先生は少ないというのが、生徒たちの教師評価となる。教える者と教わる者との立場のちがいといってしまえばそれまでだが、少なくとも、生徒たちは教師が熱心に教育しているのは認めている。しかし、残念ながら、その意欲は空まわりをし、自分たちにはぴんとこないと教師を評価している。

生徒たちがそう思うのは、してもらうことに慣れきった甘えの姿だとも考えられるが、教師の態度の中に、生徒と遊離した何かが潜んでいるのもたしかなのであろう。

そこで、担任を例として、生徒たちが教師とどの程度心が通い合っているのかを尋ねてみた。結果を**表3**に示したが、表の意味するところは、おのずと明らかであろう。

「口答えをしたといってぶたれた」（1度もない＝83%）や「先生からいやがらせをされた」（73%）、「お前はバカだといわれた」（67%）など、ぶたれたり、いやがらせをされたことはないが、そうかといって、「困ったことの相談にのってくれた」（1度もない＝69%）や「みんなの前で名前をいってほめてくれた」（57%）ことも少ないようだ。

（表1）学校や学級への満足度

→全体として、やや満足

(%)

項目	尺度	とても満足	かなり満足	やや満足	やや不満	かなり不満	とても不満
学校	① 先生	4.8	12.6	(35.8)	25.6	7.2	14.0
	② 部活動のあり方	9.7	15.2	(29.6)	23.3	7.7	14.5
	③ 生徒のふんい気	8.6	18.4	(40.4)	21.7	5.2	5.7
	④ 全体として	5.7	14.1	(42.1)	25.5	5.4	7.2
学級	① 担任の先生	11.5	15.2	(31.4)	18.9	6.7	16.3
	② 友だち	19.6	(31.1)	30.8	11.7	3.6	3.2
	③ 学級のふんい気	10.7	18.6	(35.4)	23.5	5.9	5.9
	④ 全体として	10.6	17.5	(40.8)	20.5	4.2	6.4

◯＝最頻値

（表２）どんな教師が多いか

└──→教え方はうまいが、人間としては……

(%)

項目＼尺度	全部の先生がそう	ほとんどの先生がそう	半分ぐらいの先生がそう	そういう先生はすこししかいない	そういう先生はひとりもいない
① 人間として信頼できる	2.5	13.7	32.4	(41.1)	10.3
② ユーモアがある	2.2	15.2	(41.6)	37.3	3.7
③ 教え方がうまい	2.2	14.1	(44.9)	34.7	4.1
④ 熱心に授業をする	6.7	28.5	(40.1)	21.0	3.7
⑤ 人間として尊敬できる	3.0	11.2	29.0	(43.0)	13.8
⑥ 教科の知識がしっかりしている	7.4	24.9	(39.7)	22.5	5.5
⑦ 悩みごとを話しやすい	1.6	5.3	14.5	(45.7)	32.9
⑧ 部活動を熱心に指導している	9.5	24.3	(35.4)	24.6	6.2
⑨ 学力をしっかりつけてくれそう	4.2	17.5	(38.1)	32.9	7.3
⑩ 教育について信念を持っている	5.0	16.7	(37.2)	31.9	9.2
⑪ えこひいきをしない	6.1	20.6	29.8	(31.1)	12.4
⑫ 生徒の気持ちをつかんでいる	3.2	12.5	28.7	(40.3)	15.3

Q．あなたの習っている先生の中で、次のような先生がどれくらいいますか。
あなたの感じた通りにお答えください。

◯＝最頻値

（表３）担任とのふれ合い

└──→よくも悪くも、ふれ合いに乏しい

(%)

項目	尺度	1度もない	1～2度ある	5～6回ある	なん回もある	数えきれないくらいある
励まし・親切	朝あった時先生のほうから声をかけてくれた	28.0	31.3	14.8	19.7	6.2
	みんなの前であなたの名前をいってほめてくれた	56.9	35.2	5.0	1.8	1.1
	困ったことの相談にのってくれた	69.2	23.7	4.0	1.9	1.2
	「がんばるんだよ」と声をかけ励ましてくれた	40.3	41.4	9.4	5.9	3.0
	体の具合のわるい時、親切にしてくれた	50.7	37.2	5.8	4.6	1.7
	勉強のわからないところをこまかく教えてくれた	49.9	33.5	9.1	5.3	2.2
	放課後などにスポーツの相手になってくれた	78.8	11.7	3.5	3.0	3.0
ぶつ・いやがらせ	いくら手をあげても無視して指してくれない	59.2	26.1	7.0	4.2	3.5
	先生にげんこつでぶたれた	38.5	30.3	11.7	10.1	9.4
	先生から「バカだ」とか「おまえはダメだ」とかいわれた	66.5	19.9	4.4	3.7	5.5
	あなたの気にしていることをいっていやがらせをした	72.9	15.7	3.5	2.7	5.2
	みんなの前であなたの名前をいって叱った	59.3	26.4	6.2	3.6	4.5
	口答えをしたといってぶたれた	83.3	9.7	2.1	1.2	3.7
	あいさつをしても返事をしてくれなかった	52.2	28.0	8.3	6.4	5.1

Q．あなたは今の学年になってから、担任の先生から次のようなことをしてもらった、あるいはされたことがどのくらいありますか。

◯＝最頻値

2．教師と生徒との心理的距離

したがって、いやなこともしないが、その反面励ましてもくれないのが、生徒にとっての教師の姿となる。そこで、念のために、表3のようなことをされたときに、先生を好きになるか嫌いになるかを尋ねてみた。結果は、**表4**にくわしいが、ぶたれたり、いやがらせをされたりすると、先生を嫌いになるという。したがって、表3と表4を重ねてみると、教師たちが嫌いになるようなことをしないのはたしかだが、だからといって、好きになりそうなこともしないのが、生徒からみた教師の姿となる。

こうしてみてくると、担任と生徒との心の通い合いが、予想される以上に乏しいような印象を受ける。そこで、担任が、自分のことをどの程度知っていると思うかを、生徒に尋ねてみた（**表5**）。その結果をまとめると、以下のようになる。

① だいたい知っている ――― 成績
② すこしは知っているだろう ―――
　1 進学したい高校
　2 父親の仕事
　3 友だちの名前
③ たぶん知らないだろう ―――
　1 将来つきたいと思っている仕事
　2 毎日の勉強時間
④ まったく知らないと思う ―――
　1 好きなテレビ番組
　2 好きな歌手

したがって、成績を除くと先生は自分の心の内をほとんど知らない、と生徒たちは思っているのがわかる。もっとも、**表6**によると生徒たちも、担任のことは、好きな食べ物や好きなテレビ番組など、ほとんど知らないという。したがって、教師は生徒を知らないし、生徒も教師を知らない。そして、相互にふれ合いに欠けるのが教師と生徒との関係になる。

そこで、心の通い合いを、もう少し角度を変えて調べてみようとしたのが、**図2**（**表7**）である。図から明らかなように、入院したと聞いたら、その相手が友だちなら見舞いに行く。しかし、担任の先生だと見舞いに行くのは、「行くかもしれない」を含めて32％で、50％の生徒が、先生が入院しても「なんとも思わない」か「すこし気がかり」程度だという。

したがって、教師と生徒との関係は、教える――教わるとして成立しているとしても、それ以外の人間的な関係へ広がっていないように思える。正直なところ、教授――学習過程が成立していれば、おのずと、人間的な心の通い合いが始まると考えられるから、これまでの結果は、教授――学習過程そのものの成立にも疑問を生じさせる感じがする。

（表４）担任を好き（嫌い）になるか

└──→好きにならないが、嫌いになる

（%）

項目	尺度	とても好きになる	かなり好きになる	やや好きになる	変わらないだろう	やや嫌いになる	かなり嫌いになる	とても嫌いになる
励まし・親切	朝あった時先生のほうから声をかけてくれた	9.9	12.4	32.9	39.6	1.7	0.9	2.6
		55.2				5.2		
	みんなの前であなたの名前をいってほめてくれた	10.6	11.3	26.7	44.2	2.3	1.2	3.7
		48.6				7.2		
	困ったことの相談にのってくれた	17.0	18.5	31.0	28.9	1.4	0.6	2.6
		66.5				4.6		
	「がんばるんだよ」と声をかけ励ましてくれた	17.3	18.3	33.4	26.7	1.3	0.6	2.4
		69.0				4.3		
	体の具合のわるい時、親切にしてくれた	11.4	14.8	29.7	39.5	1.3	0.8	2.5
		55.9				4.6		
	勉強のわからないところをこまかく教えてくれた	13.8	16.8	31.9	33.2	1.0	0.6	2.7
		62.5				4.3		
	放課後などにスポーツの相手になってくれた	10.9	11.9	25.4	46.9	1.1	0.6	3.2
		48.2				4.9		
ぶつ・いやがらせ	いくら手をあげても無視して指してくれない	1.7	0.6	1.1	22.4	25.9	15.9	32.4
		3.4				74.2		
	先生にげんこつでぶたれた	0.9	0.4	2.8	34.5	25.1	11.3	25.0
		4.1				61.4		
	先生から「バカだ」とか「おまえはダメだ」とかいわれた	1.1	0.4	1.1	11.1	17.6	18.8	49.9
		2.6				86.3		
	あなたの気にしていることをいっていやがらせをした	1.1	0.7	1.4	7.7	11.8	15.6	61.7
		3.2				89.1		
	みんなの前であなたの名前をいって叱った	1.1	0.7	2.2	28.4	23.2	16.1	28.3
		4.0				67.6		
	口答えをしたといってぶたれた	0.8	0.8	1.8	21.6	23.5	16.8	34.7
		3.4				75.0		
	あいさつをしても返事をしてくれなかった	0.9	0.7	0.9	21.0	30.2	18.0	28.3
		2.5				76.5		

Q．担任の先生が次のようなことをしたら、あなたは先生を嫌いになる、あるいは好きになることがあると思いますか。

◯＝最頻値

（表５）担任は知っているか

└──→心の内は知らないだろう

（%）

項目＼尺度	まったく知らないだろう	たぶん知らないだろう	すこし知っている	だいたい知っている	とてもよく知っている
あなたの好きな歌手の名	(73.6)	19.0	4.3	1.7	1.4
	92.6		7.4		
あなたの好きなテレビ番組	(70.7)	19.6	5.8	1.9	2.0
	90.3		9.7		
毎日、何時間勉強しているか	(35.5)	24.5	24.2	12.5	3.3
	60.0		40.0		
将来つきたいと思っている仕事	(35.4)	32.0	17.0	10.2	5.4
	67.4		32.6		
どんな高校へ行きたいと思っているか	16.7	23.2	22.0	(27.4)	10.7
	39.9		60.1		
あなたのお父さんの仕事	14.5	16.9	27.7	(29.8)	11.1
	31.4		68.6		
あなたがつきあっている友だちの名	14.0	14.7	(37.6)	26.6	7.1
	28.7		71.3		
勉強の成績がどれくらいか	2.8	2.8	17.6	(44.5)	32.3
	5.6		94.4		

Q．担任の先生は、あなたのことをどれくらい知っていると思いますか。　◯＝最頻値

（表6）担任を知っているか

└──→ほとんど何も知らない

(%)

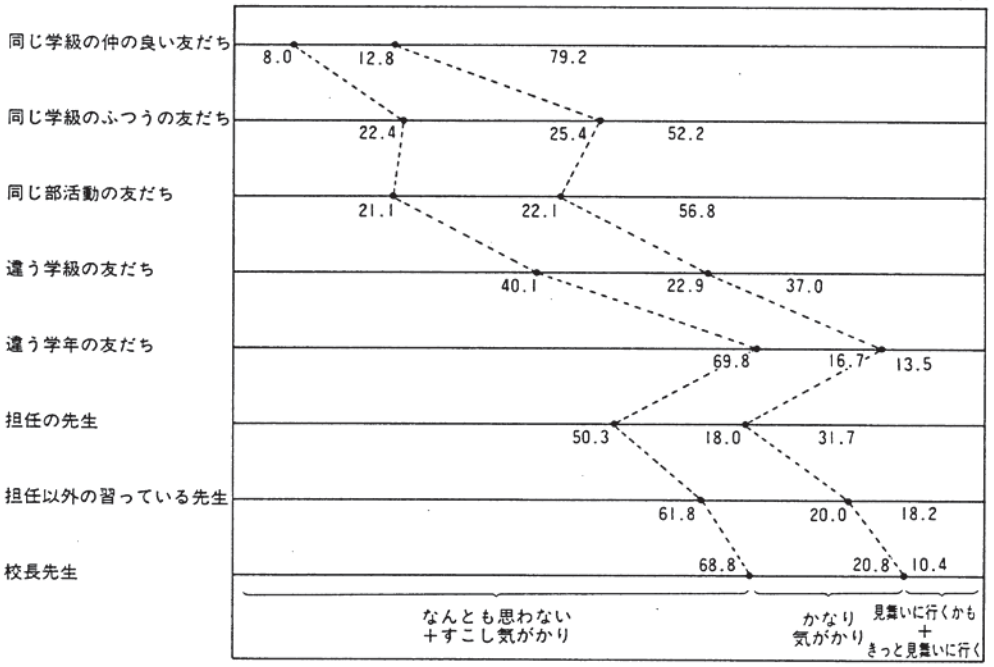
項目＼尺度	ぜんぜん知らない	ほとんど知らない	すこしわかる	だいたいわかる	ぜんぶわかる
① 今、なん歳なのか	24.2	10.5	22.1	27.7	15.5
② どこの生まれか	34.9	13.7	16.7	19.1	15.6
③ どこの県の高校を出たか	54.1	16.3	9.1	10.0	10.5
④ どの大学を出たか	57.9	17.6	7.5	7.7	9.3
⑤ 先生の好きな食べ物	63.1	17.8	9.3	5.2	4.6
⑥ 先生の好きな歌手	70.4	17.4	5.7	3.6	2.9
⑦ 先生の好きなテレビ番組	71.4	17.7	5.8	2.7	2.4
⑧ 先生の好きな色	71.1	16.1	6.9	3.7	2.2

Q．あなたは担任の先生のことをどれくらい知っていますか。

（図2）見舞いに行くか

└──→担任の見舞いに行くかもが3分の1

(%)



（くわしくは表7参照）

（表７）見舞いに行くか

└──→担任はすこし気がかりという程度

（%）

項目＼尺度	なんとも思わない	すこし気がかり	かなり気がかり	見舞いに行くかも	きっと見舞いに行く
同じ学級の仲の良い友だち	2.1	5.9	12.8	22.2	57.0
同じ学級のふつうの友だち	4.1	18.3	25.4	38.2	14.0
同じ部活動の友だち	5.4	15.7	22.1	27.2	29.6
違う学級の友だち	10.4	29.7	22.9	25.8	11.2
違う学年の友だち	31.0	38.8	16.7	9.2	4.3
担任の先生	18.5	31.8	18.0	18.3	13.4
担任以外の習っている先生	15.4	46.4	20.0	13.3	4.9
校長先生	31.0	37.8	20.8	6.4	4.0

Q．次の人たちが病気で入院したと聞いたら、あなたはどう思いますか。

◯＝最頻値

3．教師からの評価

表8によると、よい先生に受け持ってもらい、熱心に勉強するようになったことは、今までに2～3回はある。しかし、嫌いな先生に受け持たれ、勉強が嫌いになったのは、2～3回などではなく、なん回もあると生徒たちは答えている。

その限りでは、教師に対して無関心というより、いやな体験のほうが多い。これが生徒から見た場合の教師の姿のように思われてくる。

図3は、自分がどう思われているのかを、①友だちの多さ、②スポーツの得意さ、③音楽のくわしさなどについて、Ⓐ自分自身の評価とⒷ親、Ⓒ仲の良い友だち、Ⓓ担任からの見方と対比させてまとめたグラフである。

図中の①Aの53.2%を例にとると、「友だちが多い」(①)と、自分自身で「まったくその通り」と思っている生徒が18.9%で、これに「まあその通り」を含めると53.2%に達することを意味している。そして、①Bは、親から「友だちが多い」と思われているだろうと答えた生徒が54.5%いることを示している。

この図3は、いくつかの示唆に富む内容を含んでいる。なかでも、「なにごとにつけ頑張る」(④)や「行動力がある」(⑤)などの項目で、自分に自信を持てる生徒が2割弱にとどまっているなど、自己評価の低さが目につく。これは、自分に自信を持てない生徒が多いことを意味しているが、そうした事情を反映してか、他人からの見方についても自信を

（表8）好きな先生に教えてもらったら

→嫌いな先生に受け持たれ、学習する気持ちをなくしたことは多い

(%)

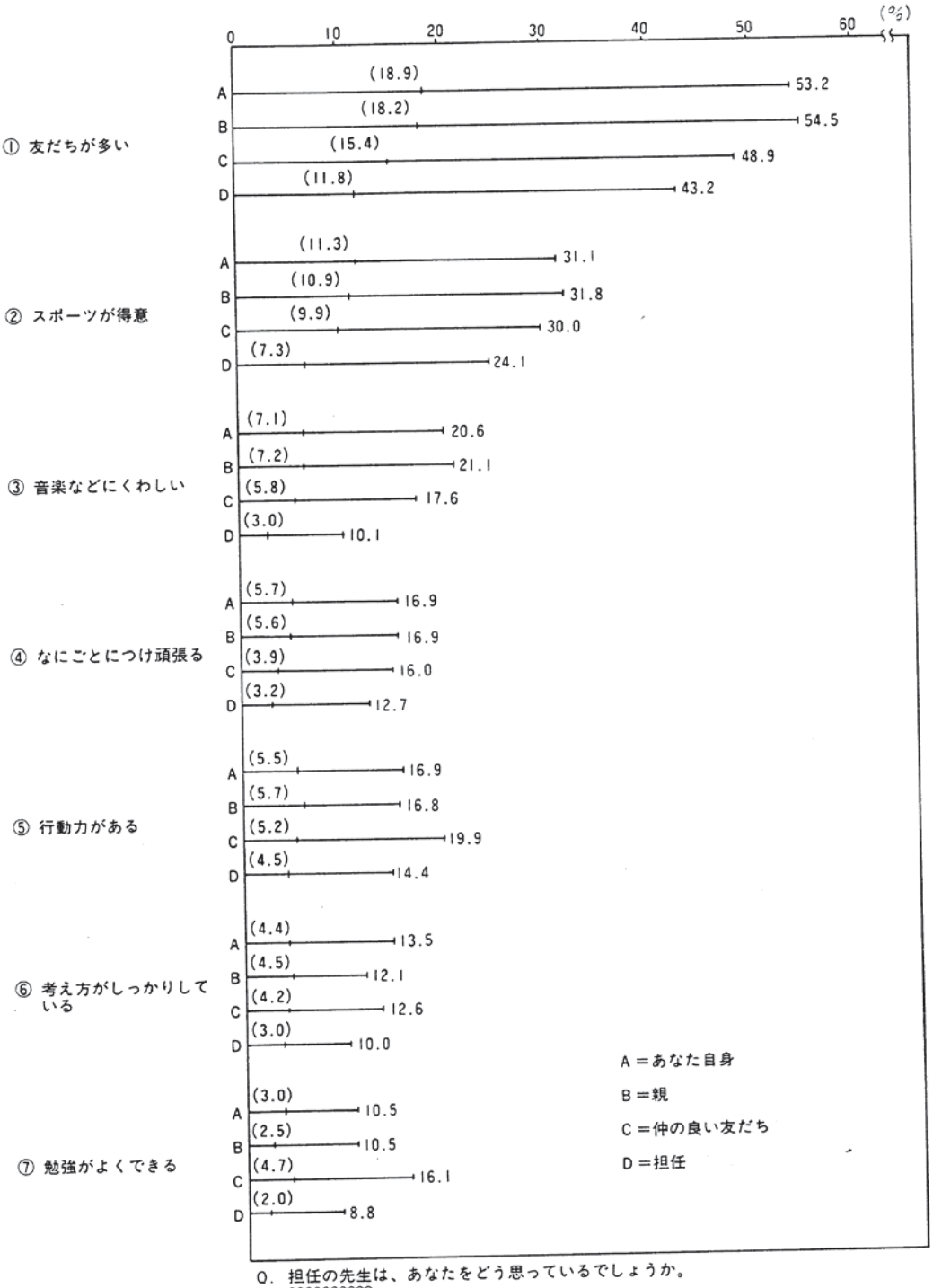
項目	尺度	そんなことは1度もない	1度ある	2～3回ある	なん回もある
よい先生	① 熱心に授業を聞くようになった	13.8	18.3	(39.3)	28.6
	② 予習や復習をするようになった	27.9	20.8	(29.4)	21.9
	③ その教科の勉強がおもしろくなった	14.2	20.5	29.2	(36.1)
	④ その教科の成績が上がった	22.3	25.8	(27.9)	24.0
先生が嫌い	① 予習や復習をしなくなった	(37.5)	15.8	16.4	30.3
	② 授業に興味を持てなくなった	18.1	17.5	23.5	(40.9)
	③ その教科が嫌いになった	17.3	18.8	21.1	(42.8)
	④ その教科の成績が下がった	26.3	20.3	22.4	(31.0)

Q．今までによい先生に教えてもらって、次のような気持ちになったことがどれくらいありますか。

Q．それとは逆に、先生が嫌いで、次のような気持ちになったことはどれくらいありますか。　◯＝最頻値

（図３）自己評価と他人からの評価

→ 自分＞親＞友だち＞担任



Q. 担任の先生は、あなたをどう思っているでしょうか。

数値は「まったくその通りだと思っている＋まあその通り」
(　)内は「まったくその通りだと思っている」

持てないようで、ほとんどすべての項目で、B～D（他人からどう思われているか）はA（自分自身の評価）より下回っている。

特に、担任からの評価（D）は、図から明らかなように、もっとも低い数値を示している。ということは、生徒たちが、担任は自分の良さを認めていないと思っていることを示唆している。

教師は、生徒を評価する立場にある。したがって、教師の見方がきびしいのは、ある程度仕方がないのかもしれない。しかし、学力面はともあれ、それ以外に、教師と生徒との関係が広がっていないのは、やはり問題なのであろう。

なお、**表9**によると、悩みごとの相談相手として、友だちがあがっているが、担任に、そうした相談相手としての役割を求める気持ちも決して少なくはない。「学力がつかない」という悩みの相談相手として教師があがっている(39%)のは当然としても、「いやがらせをされた」(41%)や「友だちができない」(23%)などでも、教師の助言が役立つと生徒たちは思っている。

したがって、生徒たちは、教師との関係が授業面だけでよいと考えているのではなく、心の内では、もうすこし人間的に親しくなりたいと願っているのであろう。そう願っているのだが、その実際は、すでに紹介した通りに、形式的なつき合いに限られ、心の内面にまでふれ合いが深まっていないようだ。

（表9）悩みの相談に誰が役立つか

→担任に相談したい

(%)

相談内容 / 相談相手	1)学力がつかない		2)友だちができない		3)どの高校へ進むか		4)いやがらせをされた		5)どんな仕事についたらよいか	
クラスの仲の良い友だち	(48.5) (16.9)	①	(54.6) (25.5)	①	37.3 (13.0)	④	(44.0) (20.7)	①	32.6 (11.7)	④
クラブの先輩	24.3 (7.9)	⑥	25.3 (8.8)	②	33.8 (12.2)	⑤	39.3 (18.2)	③	20.2 (6.7)	⑤
お父さん	28.1 (11.3)	③	16.7 (7.4)	⑤	44.9 (19.8)	③	29.5 (14.4)	④	47.0 (19.9)	②
お母さん	24.8 (9.1)	⑤	18.8 (8.4)	④	49.2 (20.5)	②	28.1 (13.6)	⑤	(49.3) (20.8)	①
担任の先生	39.2 (14.9)	②	22.9 (9.2)	③	(55.1) (23.3)	①	40.9 (18.6)	②	36.7 (13.4)	③
学習雑誌にのっているアドバイス	26.6 (7.6)	④	12.9 (5.2)	⑥	17.7 (5.9)	⑥	11.1 (3.9)	⑥	13.0 (4.5)	⑥

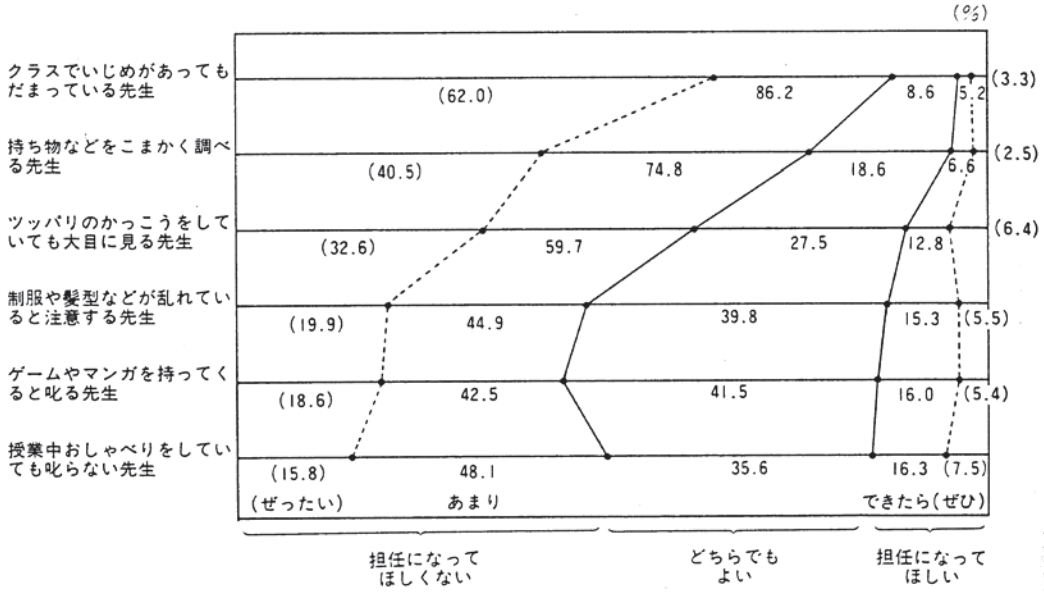
数値は「とても＋かなり役立つ」
(　)内は「とても役立つ」
◯＝最頻値

4．どんな教師を望みたいか

そこで、あらためて、担任になってほしくない先生を尋ねると、図4の通りで、「いじめがあってもだまっている先生」は担任にならないでという生徒たちの反応が目につく。

これは、ある程度もっともな結果だが、次に、表10に示したような「ユーモアがある」から「教育に信念を持つ」までの12のアイテムを示して、「いちばん望みたい」ものから順に、2位、3位、そして12位まで、序列をつけてもらった。表10に単純集計を掲げたが、

（図4）担任になってほしくない先生
└──→いじめをだまっている先生



これを平均値に着目して、生徒の求める教師像を示すと表11となる。

先生に望みたいもの
1）ユーモアがあり
2）人間として頼れる感じがし
3）生徒の気持ちをつかんでいる

そして、残念ながら、「熱心に授業をする」や「教育に信念を持つ」先生への希望は下位にとどまっている。もっとも、これは、熱心に授業をする先生が多いから、それについては満足し、現代の教師に欠けるものとして、人間として頼れる感じが、ランキングの上位へ上がっているのであろう。

実をいうと、この12の項目は、表2で、どういうタイプの先生が多いかの形で尋ねているので、表11と表2とをまとめて、望みたい先生とそういう先生がどれくらいいるのかと、そのずれを検討してみよう。

（表10）先生に望みたいもの
→ユーモア、人間性、そして生徒の気持ちをつかむこと

(%)

項目＼順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位
1）ユーモアがある	16.4	13.1	12.4	9.9	9.4	7.1	7.3	4.7	4.2	4.1	5.3	6.1
2）人間として信頼できる	15.3	12.6	10.6	9.1	9.8	8.1	7.6	6.8	5.7	4.2	5.0	5.2
3）生徒の気持ちをつかんでいる	13.2	13.4	9.8	9.8	8.8	8.4	6.8	8.1	6.3	6.5	4.8	4.1
4）教え方がうまい	9.3	11.6	11.6	11.1	9.7	8.6	9.6	8.2	6.7	5.2	5.3	3.1
5）えこひいきをしない	16.3	11.5	10.0	7.4	7.1	7.3	7.0	6.4	5.9	5.9	7.1	8.1
6）悩みごとを話しやすい	10.8	10.6	10.3	8.4	7.6	7.2	8.0	6.4	7.1	6.5	7.1	10.0
7）人間として尊敬できる	4.5	7.1	9.0	11.4	12.1	10.2	8.3	8.2	8.8	7.9	8.0	4.5
8）学力をしっかりつけてくれそう	5.5	6.7	7.7	9.2	8.0	9.3	9.7	10.2	11.2	10.2	7.9	4.4
9）熱心に授業をする	4.1	4.5	6.6	8.2	7.7	7.7	10.5	11.5	11.4	10.8	9.7	7.3
10）教科の知識がしっかりしている	1.8	3.2	5.5	5.7	8.3	8.6	10.3	9.6	11.4	12.8	11.9	10.9
11）部活動を熱心に指導している	3.7	4.0	4.5	5.2	5.6	8.3	6.7	9.5	8.2	10.1	13.3	20.9
12）教育について信念を持っている	1.6	2.4	3.6	4.7	6.1	6.6	8.6	9.3	12.2	14.9	13.8	16.2

Q. ①～⑫の中で、先生に何をいちばん望みたいですか。先生に望みたいものから順に□の中に1.2.3……12と順番をつけてください。

望みたい順位	実際に多いタイプの順位	ほとんどの先生	半分（%）ぐらいの先生
1)ユーモアがある	⑦	17.4	59.0
2)人間として信頼できる	⑧	16.2	48.6
3)生徒の気持ちをつかんでいる	⑩	15.7	44.4
4)教え方がうまい	⑨	16.3	61.2
5)えこひいきしない	④	26.7	56.5
6)悩みごとを話しやすい	⑫	6.9	21.4
7)人間として尊敬できる	⑪	14.2	43.2
8)学力をつけてくれそう	⑤	21.7	59.8
9)熱心に授業をする	①	35.2	75.3
10)教科の知識がしっかりしている	③	32.3	72.0
11)部活動を熱心に指導している	②	33.8	69.2
12)教育に信念を持っている	⑥	21.7	58.9

実際に多いタイプ	望みたいのは
1 熱心に授業をする 2 部活動を熱心に指導している 3 教科の知識がしっかりしている	→ ユーモアがある 人間として信頼できる 生徒の気持ちをつかんでいる

したがって、授業者としての教師については満足しているが、人間的に頼りがいがあってユーモアのある先生は少ない。つまり生徒たちは、精神的に信頼できる教師を求めている。それに対し、教師たちは、教師である以上、まず授業に重きを置こうとする。そうした両者の立場のちがいは、まじわることのない平行線をたどっているように思える。

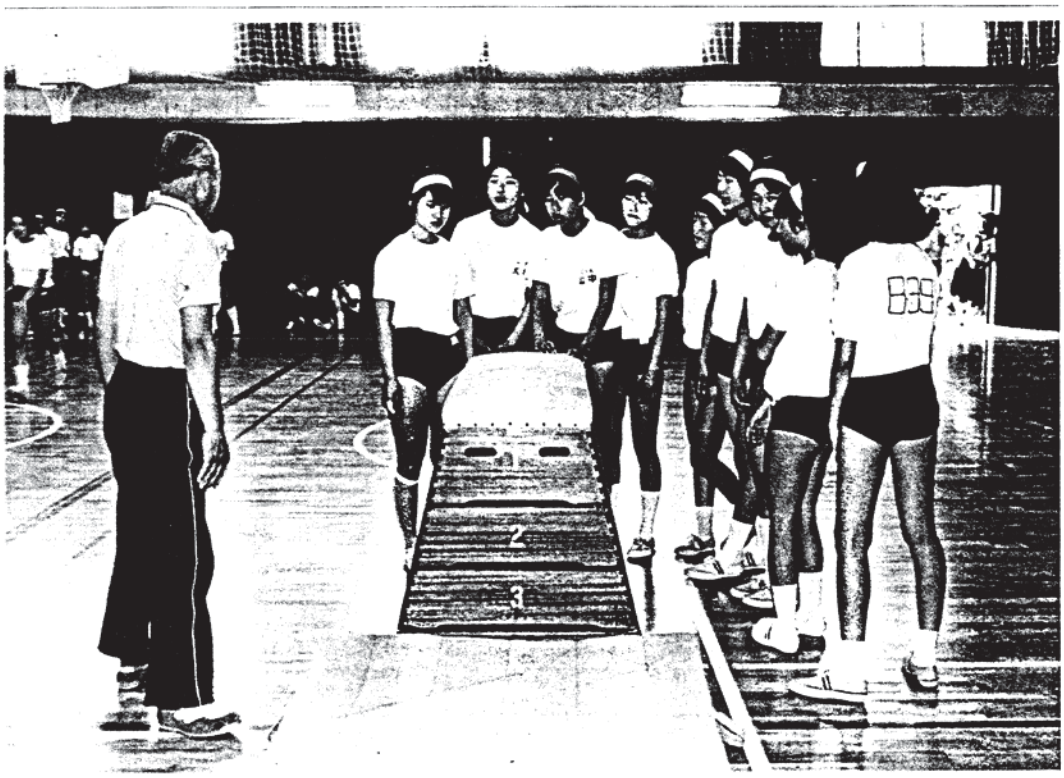
(表11) 先生に望みたいもの

└──→高校生も変わりない

	中学生		高校生	
	順位	平均値	順位	平均値
1)ユーモアがある	1	5.09	2	4.70
2)人間として信頼できる	2	5.12	1	4.12
3)生徒の気持ちをつかんでいる	3	5.40	3	5.05
4)教え方がうまい	4	5.52	4	5.18
5)えこひいきをしない	5	5.65	7	6.52
6)悩みごとを話しやすい	6	6.13	6	6.18
7)人間として尊敬できる	7	6.38	5	5.59
8)学力をしっかりつけてくれそう	8	6.67	9	7.55
9)熱心に授業をする	9	7.21	8	7.34
10)教科の知識がしっかりしている	10	7.82	10	8.04
11)部活動を熱心に指導している	11	8.19	11	8.56
12)教育について信念を持っている	12	8.46	12	8.70

(表11は「先生にいちばん望みたいもの」を1位、2位と12位までランクづけさせた結果の平均値)

第II章 生徒の教師観を支えるもの



1．教師から評価される生徒

これまで、中学生が教師をどう見ているのかを、トータルとして考えてきた。しかし、ひとくちに生徒といっても、さまざまなタイプがあり、そのタイプによって、教師との関係も異なってこよう。

そこで、以下もうすこし、こまかく属性に着目して、教師との関係を考えることにしたい。**図5**によると、担任に満足しているかそれとも不満かによって、学校生活での充足感がかなり異なるのがわかる。そうした関係は、**表12**の中に、よりシャープに表れており、担任に満足している生徒の50%が、学校が「とても・かなり楽しい」と答えているのに対し、担任についての不満が強まるにつれて、学校に対する充足感が低下している。

もちろん、学校への充足感は、いくつかの面から成り立っていようから、担任への満足度との関連がなぜ成り立つのかは、さまざまな背景が考えられる。しかし、少なくとも担任との関係がうまくいっていると、学校生活が楽しくなるのはたしかであろう。

そこで、担任との関係がうまくいっている生徒がどういうタイプなのか、属性別に集計すると、**表13**の通りとなる。この中では、成績の上位の生徒が担任に満足しているのがわかる。

成績	上位	中ノ上位	中位	中ノ下位	下位
とても／かなり 満足	37%	36%	26%	25%	21%

すでにふれたように、教師の中には熱心に授業をするタイプが多いが、それにひきかえ、人間的に親しめる先生が少ないという。それだけに成績の良い生徒は、そうした教授――学習面で、教師とつながっているので教師から認められていると思い、そして、教師との関係もうまくいっていると感じられよう。

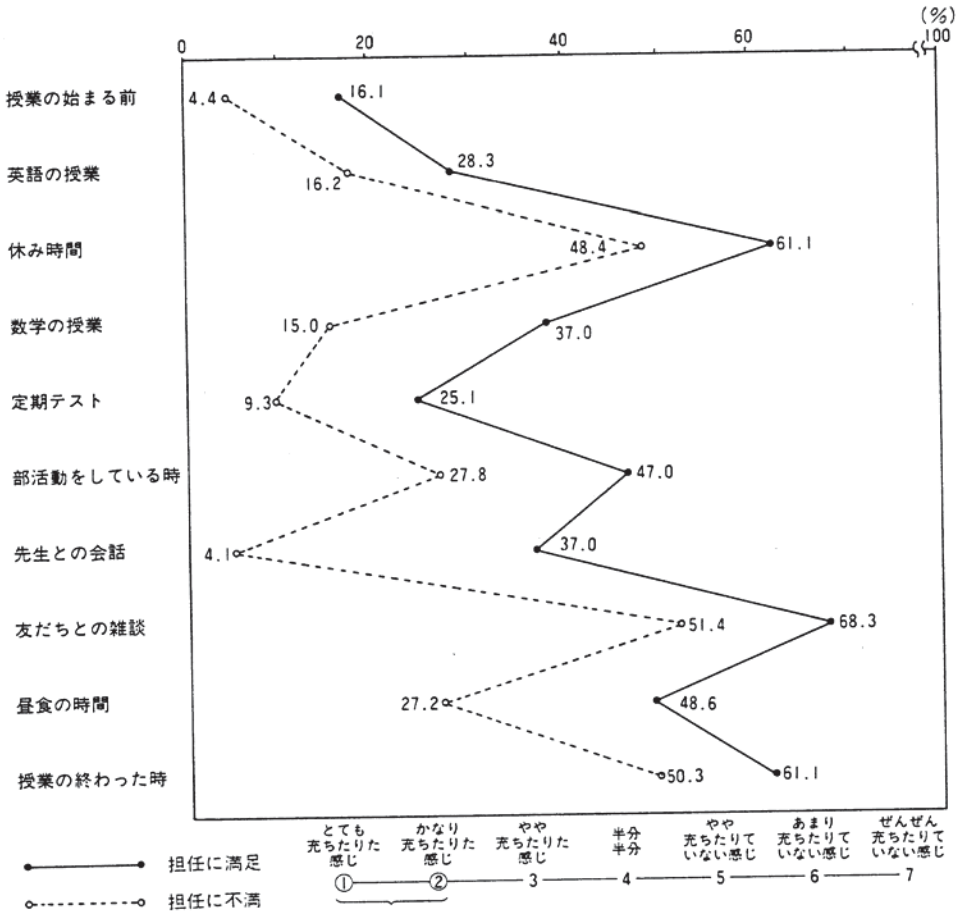
それだけに、表13の結果に理解できるものが少なくないが、もうすこし具体的に、担任が自分のどういう面を認めてくれるのかを領域別に示すと、**表14**、**表15**となる。

表15をより簡略化してみよう。

		成績 上位(A)	中位	下位(C)	C/A
担任から認められている	学力の面で	32%	13%	5%	16%
	勉強の努力の面で	27%	12%	10%	37%
	性格の面で	28%	20%	19%	68%
	友だちづき合いの面で	31%	22%	21%	68%
	全体として	32%	14%	13%	41%

（図5）学校生活への充足度×担任への満足

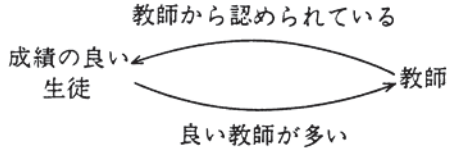
→担任により居心地が異なる



成績が下位になるにつれて、学力面で、担任に認められていないと思う生徒が増加するのは、ある程度当然であろうが、そうした評価は、学力に限らず、性格や友だち関係についても及んでいる。したがって、つきつめていえば、学業成績が上位の生徒ほど、教師とうまくいっているが、下位になると、教師との関係が冷たくなる感じになる。

そして、そうした指摘が決して誇張でないのは、**表16**にも表れている。これは、どんな教師が多いのかを成績別にまとめたもので、それをグラフ化したのが**図6**となる。

このグラフによると、成績の良い生徒は、担任から良い生徒だと認められているだけでなく、そうした生徒は、学校には良い先生が多いと思っている。



（表12）担任への満足×学校の楽しさ

→満足群は学校は楽しい

（%）

担任への満足 ＼ 学校の楽しさ		楽しい			ふつう	楽しくない		
		とても	かなり	やや		やや	あまり	ぜんぜん
満足	とても	(35.4)	14.6	18.9	18.0	5.8	3.4	3.9
		50.0		42.7			7.3	
	かなり	14.4	23.6	(25.8)	22.5	6.3	3.3	4.1
		38.0		54.6			7.4	
	やや	10.3	11.5	26.0	(37.9)	6.7	5.1	2.5
		21.8		70.6			7.6	
不満	やや	6.2	13.2	26.2	(39.2)	9.1	3.2	2.9
		19.4		74.5			6.1	
	かなり	2.5	16.9	23.7	(26.4)	14.4	11.9	4.2
		19.4		64.5			16.1	
	とても	10.0	10.7	17.2	(26.3)	7.2	10.7	17.9
		20.7		50.7			28.6	

◯＝最頻値

(表13) 担任への満足度×属性

└──→ 中２の男子、成績は上位

(%)

属性 ＼ 尺度		とても満足	かなり満足	やや満足	やや不満	かなり不満	とても不満
学年	中 1	11.8	15.3	33.0	19.6	6.1	14.2
	2	(16.8)	18.1	30.9	13.4	5.8	15.0
	3	7.7	13.1	30.9	22.2	7.7	18.4
性	男子	(13.7)	15.9	33.7	17.0	5.5	14.2
	女子	9.2	14.4	29.3	20.8	8.0	18.3
成績	上	(18.0)	19.1	24.2	13.5	6.7	18.5
	∨						
	中ノ上	15.1	21.0	30.1	16.7	6.0	11.1
	∨						
	中	11.6	14.7	35.1	21.4	6.8	10.4
	∨						
	中ノ下	9.3	15.3	36.1	18.0	6.0	15.3
	∨						
	下	8.1	12.4	28.6	21.7	10.6	18.6

(表14) 自分を認めてくれたか

└──→ やや認めてくれた感じがするが……

(%)

項目 ＼ 尺度	とても認めてくれた	かなり認めてくれた	やや認めてくれた	あまり認めてくれない	ぜんぜん認めてくれない
① 学力の面で	3.2	9.4	(46.2)	31.9	9.3
② 勉強の努力の面で	2.6	10.3	(41.0)	34.2	11.9
③ 性格の面で	4.8	14.0	(45.8)	25.6	9.8
④ 友だちづき合いの面で	4.7	17.3	(46.5)	22.7	8.8
⑤ 全体として	3.2	12.5	(50.8)	23.8	9.7

Q. 今までのことを考えると、先生方はあなたという人を十分に認めてくれたと思いますか。

◯＝最頻値

（表15）先生は認めてくれているか×成績（属性別）

→成績　上＞中ノ上＞中＞中ノ下＞下

（%）

属性＼尺度		認めた とても	認めた かなり	小計	やや認めた	認めない あまり	認めない ぜんぜん	小計
学力の面で	上	11.9	20.3	32.2	40.7	20.3	6.8	27.1
	中ノ上	2.8	15.9	18.7	53.8	20.7	6.8	27.5
	中	2.6	9.9	12.5	49.7	31.7	6.1	37.8
	中ノ下	1.3	6.0	7.3	51.1	34.8	6.8	41.6
	下	0.6	4.4	5.0	39.2	45.0	10.8	55.8
勉強の努力の面で	上	10.2	16.9	27.1	36.7	21.5	14.7	36.2
	中ノ上	2.0	17.5	19.5	47.4	26.3	6.8	33.1
	中	1.9	10.1	12.0	44.4	34.8	8.8	43.6
	中ノ下	1.3	7.8	9.1	46.1	36.0	8.8	44.8
	下	1.9	7.6	9.5	34.4	43.4	12.7	56.1
性格の面で	上	10.7	16.9	27.6	40.2	20.3	11.9	32.2
	中ノ上	2.8	18.4	21.2	54.0	18.0	6.8	24.8
	中	5.1	14.6	19.7	48.1	26.1	6.1	32.2
	中ノ下	3.3	12.3	15.6	48.8	28.5	7.1	35.6
	下	5.2	14.2	19.4	40.0	27.1	13.5	40.6
友だちづき合いの面で	上	11.4	19.3	30.7	40.3	19.3	9.7	29.0
	中ノ上	2.4	25.6	28.0	46.0	20.0	6.0	26.0
	中	4.5	17.7	22.2	50.4	20.8	6.6	27.4
	中ノ下	3.5	15.8	19.3	50.1	24.8	5.8	30.6
	下	5.8	15.5	21.3	45.8	23.9	9.0	32.9
全体として	上	10.2	22.0	32.2	39.5	16.4	11.9	28.3
	中ノ上	2.8	17.1	19.9	57.4	15.5	7.2	22.7
	中	2.4	11.4	13.8	57.3	22.7	6.2	28.9
	中ノ下	2.3	12.1	14.4	52.4	26.9	6.3	33.2
	下	2.5	10.2	12.7	48.4	26.8	12.1	38.9

（表16）どんな教師が多いか×成績

└──→上＞中ノ上＞中＞中ノ下

（%）

教師＼成績	上		中ノ上		中		中ノ下		下		差（①−⑤）
人間として信頼できる	②	24.8	①	25.9	③	17.3	④	12.6	⑤	11.2	14.7
ユーモアがある	②	22.1	①	25.5	③	18.1	④	14.6	⑤	12.4	13.1
教え方がうまい	①	24.1	②	23.9	③	16.4	④	15.0	⑤	9.9	14.2
熱心に授業をする	①	46.1	②	41.9	③	35.8	④	31.6	⑤	30.0	16.1
人間として尊敬できる	①	25.9	②	21.1	④	13.0	③	13.6	⑤	5.7	20.2
教科の知識がしっかりしている	②	39.3	①	40.5	④	31.4	③	32.5	⑤	26.7	13.8
悩みごとを話しやすい	①	11.9	②	10.4	④	5.2	③	6.8	⑤	5.1	6.8
部活動を熱心に指導している	①	44.0	④	34.3	③	35.9	②	36.2	⑤	24.5	19.5
学力をしっかりつけてくれそう	①	32.0	②	31.4	③	21.1	④	21.0	⑤	16.9	15.1
教育について信念を持っている	②	24.8	①	30.4	③	23.0	⑤	18.9	④	20.9	11.5
えこひいきをしない	①	34.5	②	30.7	③	27.5	④	24.8	⑤	23.1	11.4
生徒の気持ちをつかんでいる	①	29.9	②	23.2	④	13.8	③	14.1	⑤	12.4	17.5

数値は「全部の先生がそう＋ほとんどの先生がそう」

2．数量化II類を使って

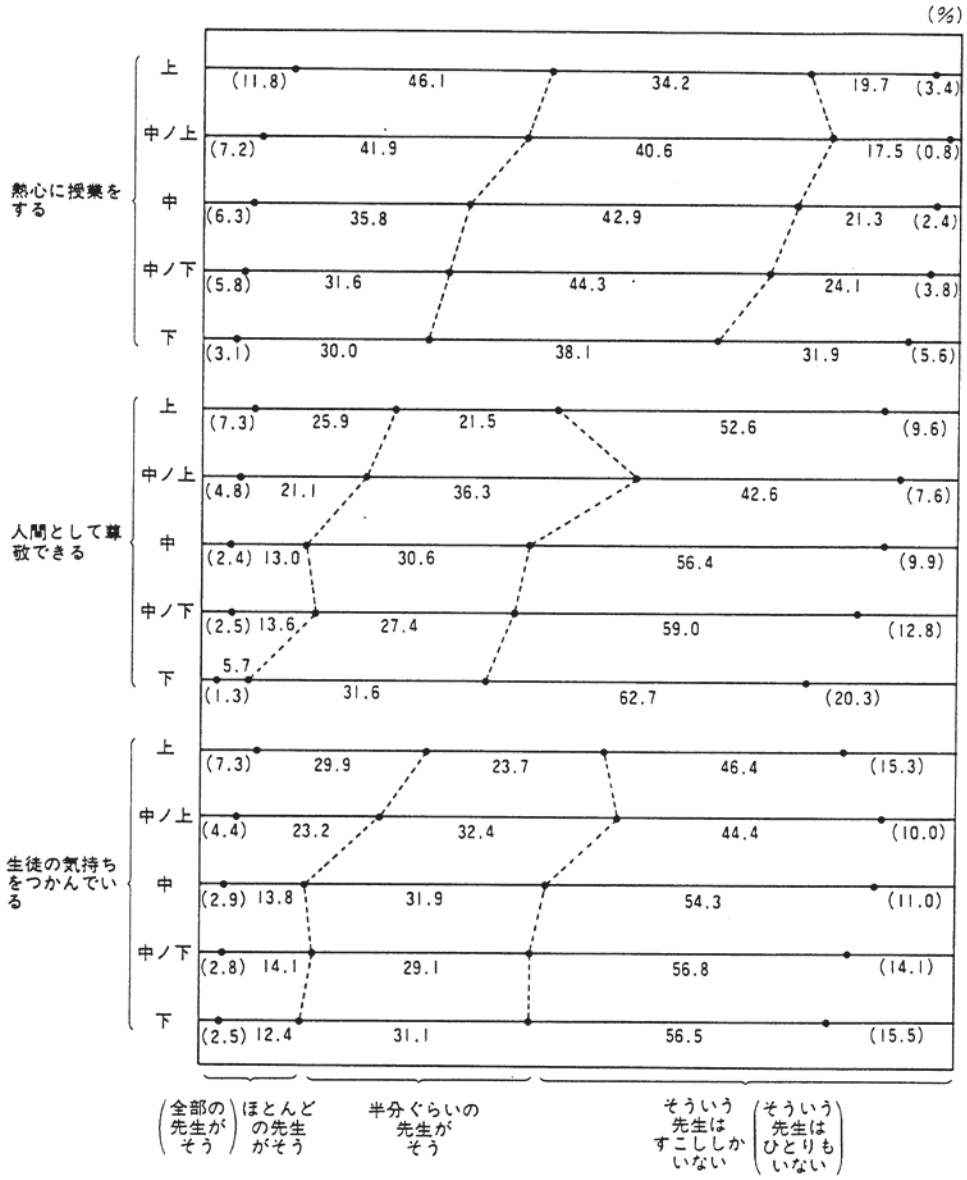
しかし、これだけのデータから、教師に対する評価が、生徒の学力によって規定されると結論づけるのは、危険かもしれない。

そこで、*数量化II類を用いて、担任から学力を認められている（と思っている）生徒の属性について分析してみた（図7）。

数量化II類は、周知のように、カテゴリー・スコアの形で表示され、この場合プラスの数値が大きいほど、担任から学力が認められることを意味し、マイナスの数値が大きいほど学力が認められないことを意味している。

		カテゴリー・スコア
学力を認められる	1とても頑張るタイプで	(8.58)
	2一流大学へ入るつもりの	(6.29)
	3成績が上位の生徒	(5.69)

（図６）どんな教師が多いか×成績



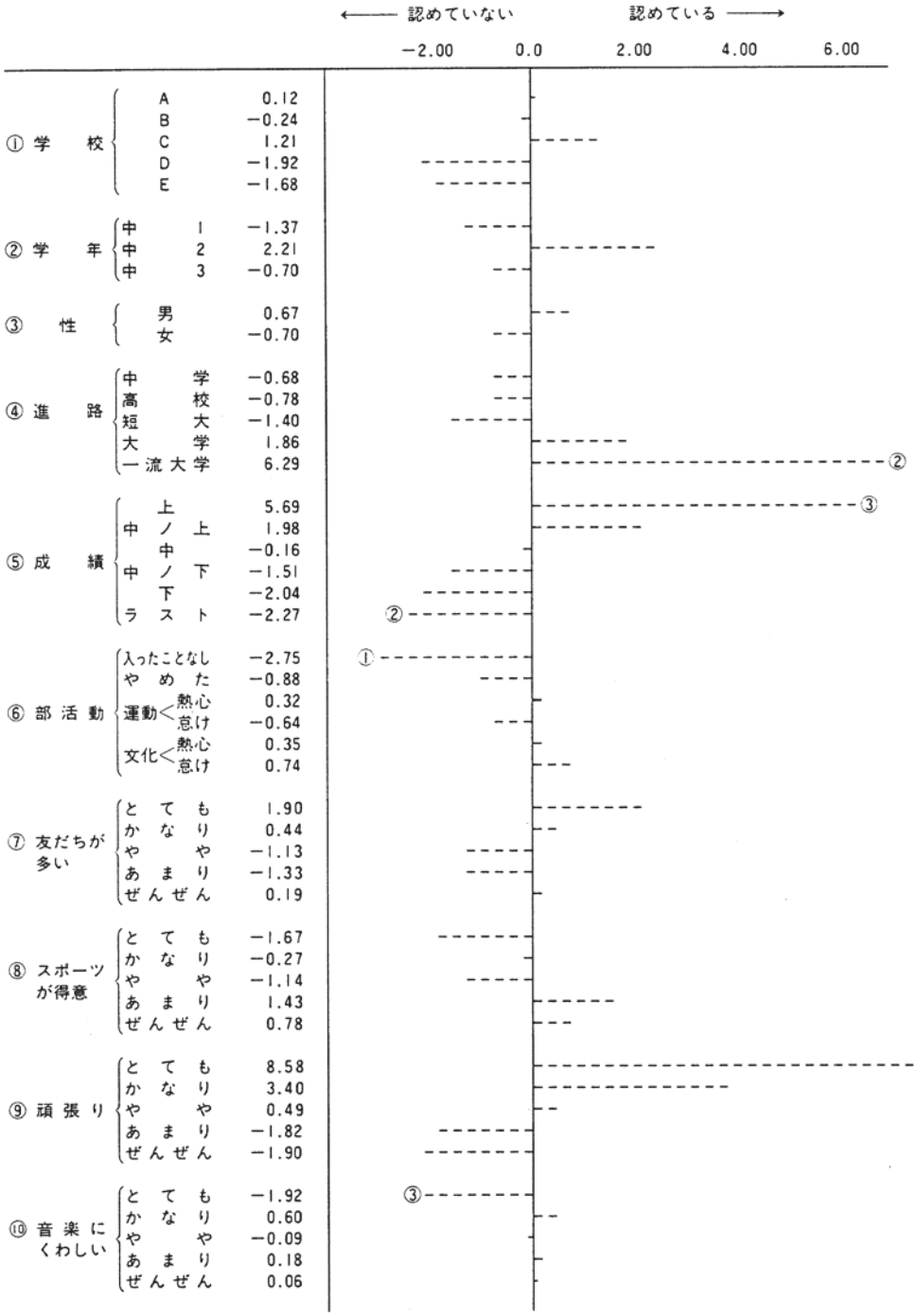
学力を認めてもらえない
- 1部に入ったことがなく (−2.75)
- 2成績がラストで (−2.27)
- 3とても音楽好きの生徒 (−1.92)

教師から学力を認めてもらうことと本人の成績との関係は、ある程度まで予想された通りだが、次に学力を離れ、トータルとして、担任から認められているかどうかを図８にまとめてみた。

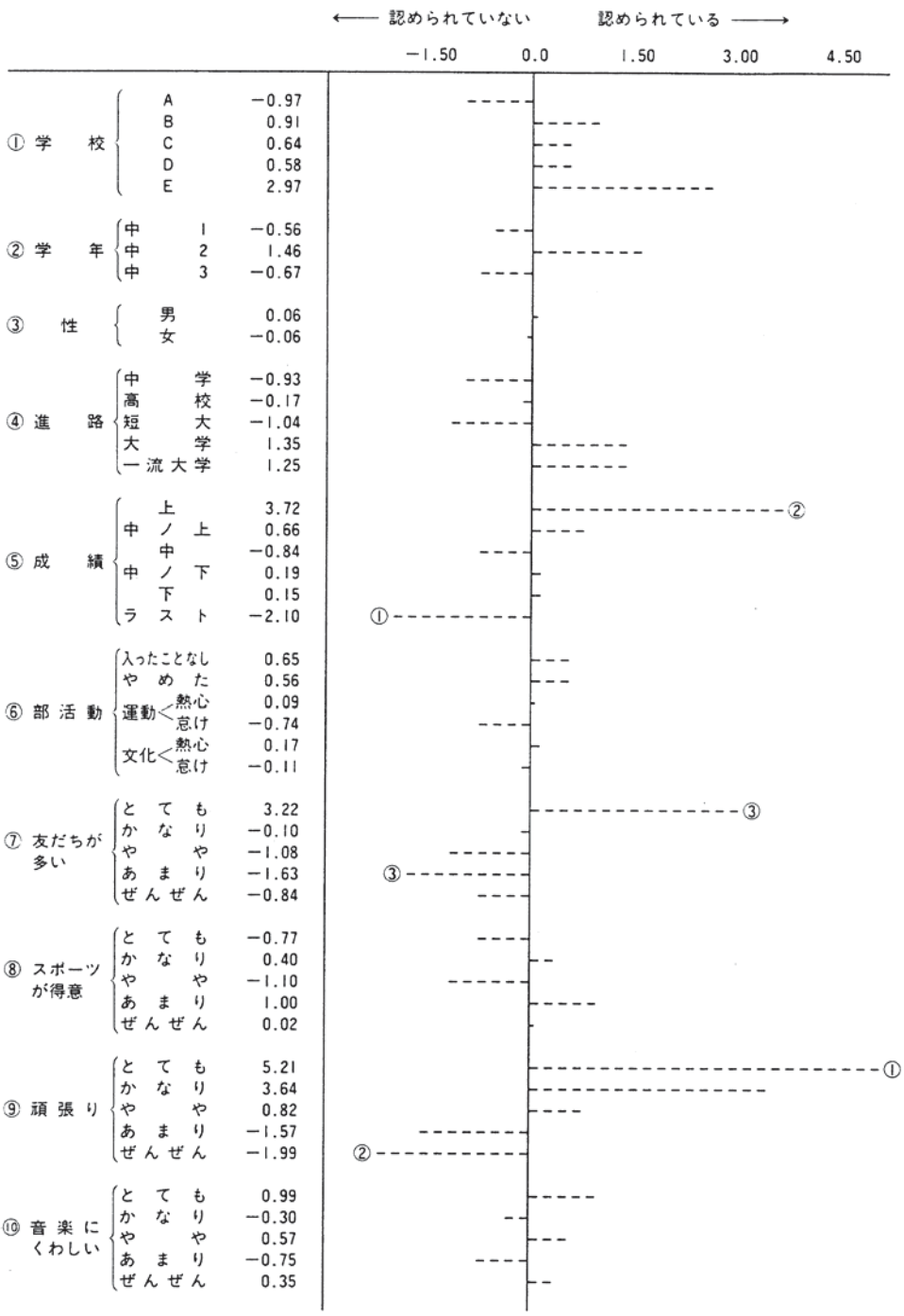
図７と同じように、図８でも、学年や性別など、10のアイテムを設定して分析を試みて

（図７）担任は学力を認めてくれているか×属性

└──→成績が上位で頑張るタイプ



（図8）担任からトータルとして認められているか×属性



認められる＝頑張るタイプで成績上位の友だちの多い子
無視されがち＝無気力型で成績のふるわない孤立型の子

みた。

		カテゴリー・スコア
担任から認められるタイプ	1とても頑張る	(5.21)
	2成績上位の	(3.72)
	3友だちの多い生徒	(3.22)
担任から認められないタイプ	1成績がラストの	(−2.10)
	2頑張りに欠ける	(−1.99)
	3友だちの少ない生徒	(−1.63)

頑張るタイプで、勉強も得意、その上友だちが多いとなれば、中学校の模範生であろう。そうしたタイプの生徒が、教師から評価され、そして、学校に充足感を味わっているのは納得できる。

表17によると、頑張るタイプの生徒は、成績も良く、そして、友だちも多い場合が多い。したがって、いずれも相関が認められるが、残念ながらそうした生徒は、全体の6％前後にすぎない。したがって、教師としては、成績が上位とはいえず、友だちもそれほど多くなく、さらに、頑張りやだとはいえない生徒に、どの程度充足感を与えるかが問われるのであろう。

そこで、全体として、担任に対する気持ちがどういう条件で異なるのかを、トータルとしてまとめたのが**表18**である。この表では、アイテムの持つ重みを*偏相関係数の形で示してある。当然、係数値の高い項目ほど、説明力が大きいが、中学生の場合、その他の項目でも、担任についての評価が、頑張りや、友だちの多さ、そして成績などに規定されているのがわかる。

＊数量化II類

ある事実――図7についていえば「担任から学力を認められているか」――が、どういう要因によって規定されているのかを説明する方式。図7では、①～⑩の要因(アイテム)、47の項目（カテゴリー）を設定してある。

＊偏相関係数

数量化II類の場合、ある事実をいくつかの要因を変数にして説明していく形をとるが、その説明力の大きさが偏相関係数となる。0から1.0までの間に分布するが、数値が大きいほど、説明力は大きい。

(表17) 頑張り×友だちが多い・成績

→頑張るタイプは勉強もでき友だちも多い

(%)

		友だちが多い					成績						N
		多い			多くない								
		とても	かなり	やや	あまり	ぜんぜん	上	中ノ上	中	中ノ下	下	ラスト	
頑張る	とても	70.0	19.4	6.8	1.9	1.9	29.1	15.5	31.1	9.7	2.9	11.7	5.7
	かなり	24.3	54.3	15.9	4.0	1.5	16.7	23.7	30.2	17.2	5.6	6.6	11.2
	やや	20.0	39.7	27.9	11.2	1.2	9.3	17.3	33.6	24.0	7.5	8.3	27.9
頑張らない	あまり	11.2	31.4	36.3	19.6	1.5	6.2	12.2	35.5	25.8	9.8	10.5	37.3
	ぜんぜん	12.8	24.3	23.7	24.9	14.3	8.5	6.3	26.2	20.4	14.1	24.5	17.9
N		18.9	34.3	27.7	15.4	3.7	9.9	14.0	32.7	22.4	9.0	12.0	100.0

r＝0.366　　r＝0.241

（表18）担任に対する気持ち（数量化II類・偏相関係数を用いて）

→頑張る、友だちが多い、成績

			1)学力を認める		2)性格を認める		3)全体として認めてくれる		4)担任に満足	
中学生	1	学校	7	0.050	③	0.092	5	0.073	②	0.126
	2	学年	4	0.093	7	0.061	4	0.074	①	0.147
	3	性	9	0.044	10	0.005	10	0.004	8	0.056
	4	将来の進路	③	0.120	4	0.088	6	0.067	10	0.047
	5	成績	②	0.146	9	0.057	③	0.111	5	0.091
	6	部活動	8	0.046	6	0.066	9	0.028	③	0.101
	7	友だちが多い	5	0.072	①	0.127	②	0.118	4	0.095
	8	スポーツ	5	0.072	8	0.059	7	0.062	9	0.052
	9	頑張る	①	0.165	②	0.115	①	0.156	6	0.085
	10	音楽	10	0.038	5	0.083	8	0.046	7	0.071
高校生	1	学校	7	0.075	10	0.055	9	0.052	9	0.075
	2	学年	10	0.038	9	0.069	6	0.137	③	0.189
	3	性	8	0.063	7	0.091	10	0.035	10	0.058
	4	将来の進路	4	0.140	①	0.207	①	0.250	6	0.111
	5	成績	①	0.186	6	0.172	5	0.148	①	0.259
	6	部活動	9	0.041	②	0.195	7	0.127	7	0.098
	7	友だちが多い	5	0.122	5	0.177	③	0.173	8	0.095
	8	スポーツ	②	0.177	③	0.193	4	0.153	5	0.132
	9	頑張る	6	0.114	4	0.185	②	0.199	②	0.221
	10	音楽	③	0.143	8	0.079	8	0.091	4	0.184

3．高校生と比較して

これまで、中学生にとっての教師像を考察してきた。そして全体として、授業者としてはともあれ、人間的なふれ合いの乏しさが目立った。

そこで、教師との関係のこれから先を探る意味で、高校生を対象とした調査を手がかりとして、教師観が中学生から高校生へと変わることによって、いかに異なるのかを考えてみたい。

表19に、担任に対する満足度を示した。「とても」に「かなり」を加えた満足度は、中学生の27%に対し、高校生は17%で、高校生たちの教師離れが目につく。

さらに、**表20**によると、担任について「ほとんど知らない」、つまり無関心の割合も、中学生から高校生になるにつれて高まっている。

高校生ともなると、自分なりの判断ができるようになり、中学生のように、教師に頼ろうとしなくなるのかもしれないが、**図9**によれば、中学生より高校生のほうが、担任は自分の存在を認めていないと思う割合が増加している。

	中学生		高校生
学力の面で	41%	＜	50%
勉強の努力の面で	46%	＜	52%
性格の面で	35%	＜	43%
友だちづき合いの面で	32%	＜	39%
全体として	34%	＜	42%

自分を「あまり」+「ぜんぜん」認めてくれていないと思う割合

（表19）担任に対する満足度

→ 中学生＞高校生

(%)

属性＼尺度		満足				不満				
		とても	かなり	小計	やや	やや	小計	かなり	とても	小計
中学生	中1	11.8	15.3	27.1	33.0	19.6	52.6	6.1	14.2	20.3
	2	16.8	18.1	34.9	30.9	13.4	44.3	5.8	15.0	20.8
	3	7.7	13.1	20.8	30.9	22.2	53.1	7.7	18.4	26.1
	計	11.5	15.2	26.7	31.4	18.9	50.3	6.7	16.3	23.0
高校生	高1	8.5	12.4	20.9	37.9	20.1	58.0	6.5	14.6	21.1
	2	7.8	6.8	14.6	32.8	19.9	52.7	7.8	24.9	32.7
	3	5.8	8.8	14.6	43.1	25.1	68.2	5.8	11.4	17.2
	計	7.5	9.6	17.1	37.7	21.5	59.2	6.7	17.0	23.7

さらに図10に、「担任の助言は役立つか」の集計結果を示したが、このグラフでも高校生のほうが担任の助言は役立たないと答えている割合が多い。つまり、教師離れの傾向が目につく。

そして、表21によると、高校生たちは教師にいやなことをされても嫌いにならないかわりに、ほめられたからといって、そんなに簡単に教師を好きになることもないという。

表19から表21にかけてのデータを重ね合わせてみると、高校生たちの教師に対する無関心、よい言い方をすれば、教師離れの傾向が著しい。考えてみれば、いつまでたっても教師に依存しているのは困る。とはいっても、表中の結果は、生徒の自主性の表れというより、教師と人間的なふれ合いの乏しさを示すものではないだろうか。そうした教師に対するあきらめにも似た気持ちが生徒たちの間に教師離れをひきおこしたとみるのが妥当な評価であろう。

(表20) 担任を知っているか

└──→ 高校生はほとんど知らない

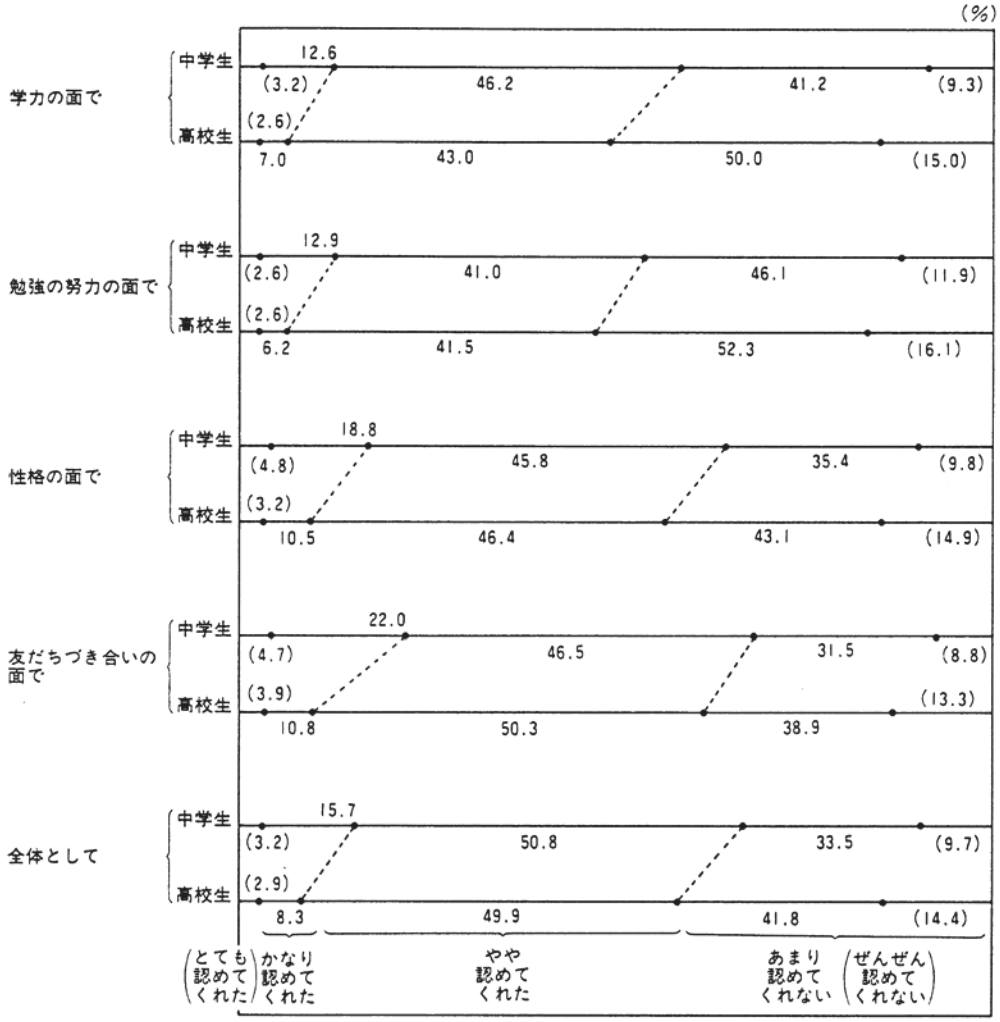
(%)

項目 ＼ 尺度	中学生 知らない(ぜんぜん)		高校生 知らない(ぜんぜん)
① 今、なん歳なのか	34.7 (24.2)	<	61.7 (44.2)
② どこの生まれか	48.6 (34.9)	<	72.7 (54.3)
③ どこの県の高校を出たか	70.7 (54.1)	≒	69.2 (52.2)
④ どの大学を出たか	75.5 (57.9)	≒	74.8 (55.8)
⑤ 先生の好きな食べ物	80.9 (63.1)	<	94.4 (75.3)
⑥ 先生の好きな歌手	87.8 (70.4)	<	91.2 (74.1)
⑦ 先生の好きなテレビ番組	89.1 (71.4)	<	93.5 (75.3)
⑧ 先生の好きな色	87.2 (71.1)	<	92.9 (75.3)

数値は「ぜんぜん＋ほとんど知らない」
(　)内は「ぜんぜん知らない」

（図９）先生から認められているか

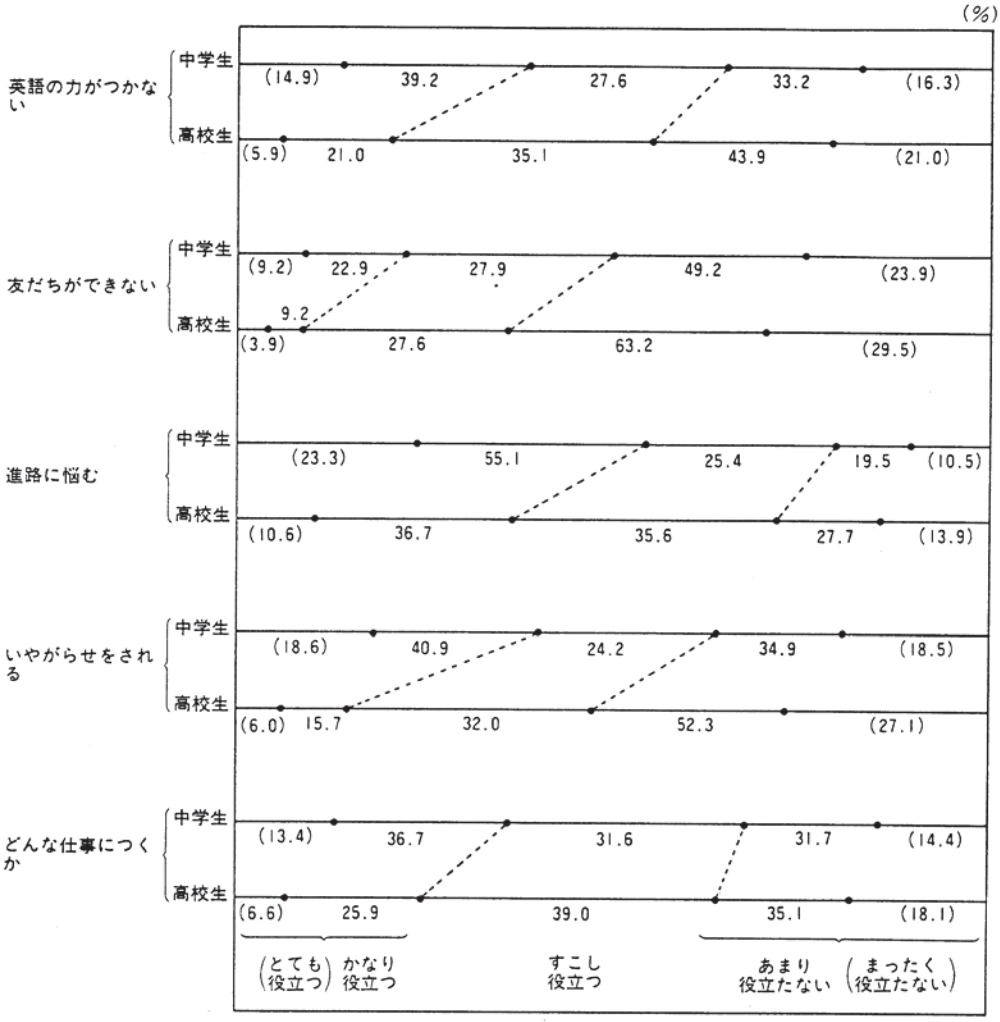
└──→担任から認められない（中学生＜高校生）



Q．先生方はあなたという人を十分に認めてくれたと思いますか。

（図10）担任の助言は役立つか

→高校生は担任離れ



（表21）教師の態度×中学生・高校生

└──→高校生は影響を受けなくなる

（%）

教師の態度 ＼ 尺度			好きになる			変わらない	嫌いになる		
			とても	かなり	やや		やや	かなり	とても
けなす	手をあげても無視	中学生	1.7	0.6	2.3	1.1 22.4 25.9 49.4	15.9	32.4	48.3
		高校生	4.2	0.7	4.9	1.1 36.5 20.3 57.9	9.4	27.8	37.2
	げんこつでぶたれた	中学生	0.9	0.4	1.3	2.8 34.5 25.1 62.4	11.3	25.0	36.3
		高校生	2.2	0.6	2.8	1.3 37.3 23.5 62.1	9.9	25.2	35.1
	気にしていることをいう	中学生	1.1	0.7	1.8	1.4 7.7 11.8 20.9	15.6	61.7	77.3
		高校生	1.7	1.0	2.7	0.8 14.9 13.3 29.0	15.4	52.9	68.3
ほめる	みんなの前でほめる	中学生	10.6	11.3	21.9	26.7 44.2 2.3 73.2	1.2	3.7	4.9
		高校生	5.3	4.7	10.0	20.3 59.1 3.1 82.5	1.1	6.4	7.5
	頑張れと励ました	中学生	17.3	18.3	35.6	33.4 26.7 1.3 61.4	0.6	2.4	3.0
		高校生	9.7	10.5	20.2	36.6 35.7 1.8 74.1	0.6	5.1	5.7
	相談にのってくれた	中学生	17.0	18.5	35.5	31.0 28.9 1.4 61.3	0.6	2.6	3.2
		高校生	9.1	14.7	23.8	35.7 33.2 1.2 70.1	0.7	5.4	6.1

4．教師像の類型化

それならば、生徒たちはどんな教師を望んでいるのか。

担任に対する希望を*数量化Ⅲ類で分析し直すと、**表22**のようなスコアが得られる。これは、表の下に注記したような形で回答を求め、○印はそれを重視する、□は軽視するのを意味する。また、表中の1～12は回答選択に対応している。

表中には、便宜上、Ⅰ軸とⅢ軸とを示したが、それぞれの軸の意味は、以下のようにとらえられよう。

Ⅰ軸　授業の軸	
プラス＝学力をつけてくれる	マイナス＝充足を与えてくれる
⑥知識のしっかりした	⑫生徒の気持ちのわかる
④熱心に授業する	⑦悩みごとを話しやすい
③教え方のうまい	3教え方はうまくない
Ⅲ軸　権威の軸	
プラス＝権威のある	マイナス＝友だちのような
⑩信念を持つ	②ユーモアがある
2ユーモアに乏しい	9学力はつかない
⑨学力をつけてくれる	③教え方がうまい

そしてこの両者を交差させると、教師のタイプとして、**図11**のような構図がうかんでくる。

まず、第一象限に、権威を持って学力をつけてくれるタイプ、やや誇張していえば、予備校教師型が位置し、第二象限に、権威を持つと同時に生徒の気持ちを理解してくれるカウンセラー型が並ぶ。そして、第三象限は悩みなどを話しやすい親友型が、さらに、第四象限に、熱心に尽くしてくれる家庭教師型の教師像が位置する。

念のために、それぞれのアイテムを平面上にドットさせると、**図12**のようになる。そして、この平面上にサンプル・スコアを求めると、**図13**の通りとなる。くわしくは、図中のスコアに目をとめていただきたいが、全体としての傾向は、**図14**のようにまとめられよう。

つまり、学年が上がるにつれて、なにかと尽くしてくれる家庭教師型に代わって、自分の気持ちを理解してくれるカウンセラー型の教師を求め始める。権威を持っていない親友型の教師も困るが、予備校教師型も冷たい感じでとっつきにくい。だから自分の気持ちをくみとってくれる上に頼れる感じのする、カウンセラー型の教師に教えてほしいというのが生徒の願いになる。

なお成績上位の生徒はカウンセラー型というより、学力をつけてくれる家庭教師型を望んでいるが、これは彼らが、教師に充足感を抱いているための反応であろう。

そろそろまとめに入ろう。こうしたデータを重ね合わせていくと、教師の目指している方向と生徒の求める教師像とがずれているのがわかる。端的にいって、生徒たちは、自分の気持ちを理解してくれ、ときには、励ましたり、支えたりしてくれる教師を求めている。しかし、教師は、とにもかくにも、生徒たちを学習集団としてとらえるので、個々の生徒はその構成員にすぎなくなる。そのため、生徒の心の内まで、踏みこめなくなる。

マクロな見方をすると、授業者としての力量では、日本の教師は世界の中でもトップの実力の持ち主であろう。特に、一斉授業の形をとりながら、個々の生徒の反応をたしかめつつ、授業を展開していくありさまは名人芸

(表22) どんな教師を望みたいか

→(カテゴリー・スコア)　○＝1～4位(重視)　□＝5～12位(軽視)

I 軸		III 軸	
⑥ 知識	2.684	⑩ 信念	4.076
④ 授業	2.592	2 ユーモア	2.372
③ 教え方	1.729	⑨ 学力	2.072
⑨ 学力	1.426	⑥ 知識	1.809
12 生徒の気持ち	1.343	⑫ 生徒の気持ち	0.713
7 悩み	1.005	⑪ えこひいき	0.702
⑩ 信念	0.931	1 信頼	0.618
① 信頼	0.767	3 教え方	0.566
11 えこひいき	0.693	⑤ 尊敬	0.548
5 尊敬	0.485	7 悩み	0.245
⑧ 部活動	0.465	8 部活動	0.132
② ユーモア	0.238	4 授業	0.090
8 部活動	−0.103	5 尊敬	−0.260
10 信念	−0.129	④ 授業	−0.300
2 ユーモア	−0.253	6 知識	−0.339
6 知識	−0.503	⑦ 悩み	−0.367
9 学力	−0.581	10 信念	−0.565
4 授業	−0.781	11 えこひいき	−0.590
⑪ えこひいき	−0.824	12 生徒の気持ち	−0.604
① 信頼	−0.860	⑧ 部活動	−0.635
⑤ 尊敬	−0.980	① 信頼	−0.693
3 教え方	−1.297	③ 教え方	−0.754
⑦ 悩み	−1.502	9 学力	−0.844
⑫ 生徒の気持ち	−1.584	② ユーモア	−2.231

学力(をつけてくれる)↑　↓気持ち(を理解してくれる)

権威(のある)↑　↓友だち(のような)

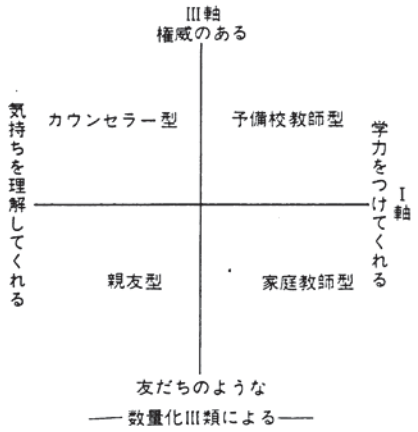
Q. ①～⑫の中で、先生に何をいちばん望みたいですか。先生に望みたいものから順に□の中に1.2.3.……12と順番をつけてください。

① 人間として信頼できる	□	⑦ 悩みごとを話しやすい	□
② ユーモアがある	□	⑧ 部活動を熱心に指導している	□
③ 教え方がうまい	□	⑨ 学力をしっかりつけてくれそう	□
④ 熱心に授業をする	□	⑩ 教育について信念を持っている	□
⑤ 人間として尊敬できる	□	⑪ えこひいきをしない	□
⑥ 教科の知識がしっかりしている	□	⑫ 生徒の気持ちをつかんでいる	□

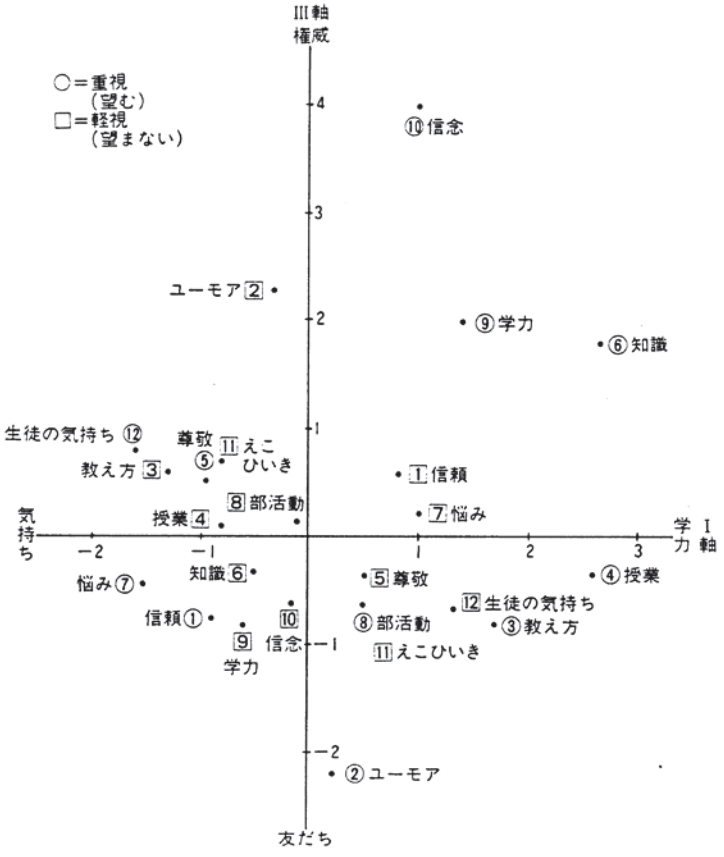
の感すら受ける。そして、すでにふれた通り、生徒たちも、授業の熱心さについては、高い評価を与えている。その限りでは、日本の教師は教師としての責務は果たしているといえよう。

しかし、人間的な心の通い合いを求める生

（図11）教師の類型



（図12）どんな教師を望みたいか（数量化III類による）



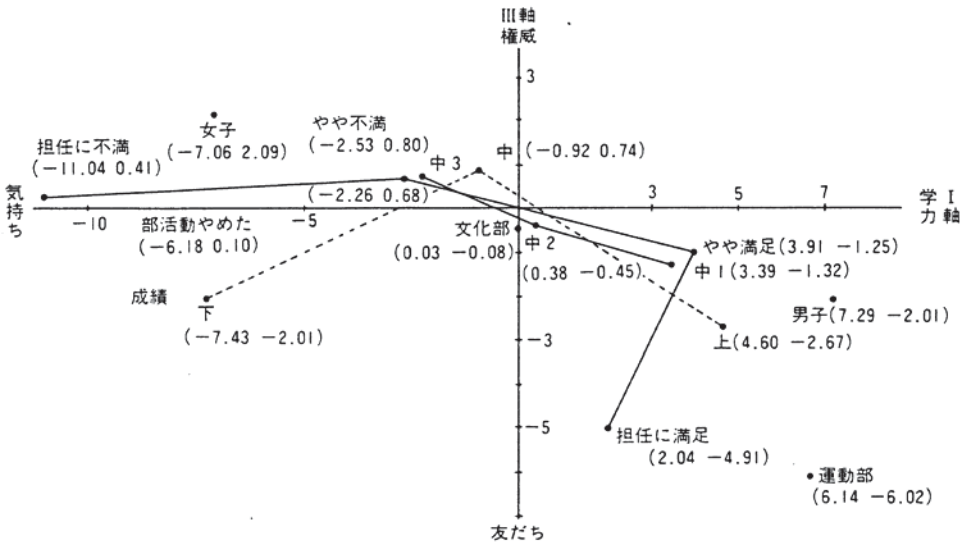
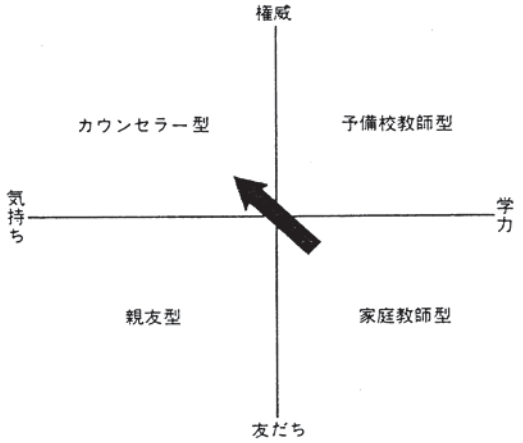
徒の気持ちも、なんとなくわかる気持ちがする。授業をしつつ、その上に、生徒の心に気を配るなどというのは、難問のように思える。しかし、学校をとりまくさまざまな病理の出現を思い起こすと、授業者と同時に、カウンセラーの役割を果たすことが、今後の教師に望まれているように感じられてならない。

＊数量化Ⅲ類

ある現象――表22についていえば「どんな教師を望みたいか」――がどういう構造になっているかを、いくつかの変数――表22では、①～⑫の12の要因それぞれを２つに分けるので合計24の項目（カテゴリー）を使う――を使って説明しようとする。２つの軸を交差させ、平面上に項目を散らばらせた形で説明する（図12）場合が多い。

（図13）属性別のサンプルスコア（×10⁻²）

→家庭教師型からカウンセラー型へ



（図14）生徒の望む教師像